



青森市埋蔵文化財調査報告書 第104集

# 長溜池遺跡

発掘調査報告書

平成 21 年度

青森市教育委員会

## 序

平成22年3月現在、青森市内の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）は408ヶ所を数え、各種公共事業や民間土木工事に際しては、慎重を期すとともに記録保存を前提とした発掘調査が実施されております。

平成20年度および21年度に調査した長溜池遺跡は、青森市浪岡大字松枝字野尻、女鹿沢字平野に所在する縄文時代・平安時代の遺跡であり、野尻本線道路整備事業に伴う発掘調査を実施しました。その結果、平安時代の竪穴遺構2基、土坑13基、小ピット7基、溝状遺構11条および土師器・縄文土器・近世陶磁器等が検出されました。

本書は、このたびの発掘調査成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財保護ならびに調査・研究の一助になれば幸いです。

本書の刊行にあたり、関係機関および関係各位のご指導とご協力に深く感謝いたします。

平成22年3月

青森市教育委員会

教育長 月 永 良 彦

## 例 言

1. 本書は、青森市教育委員会が発掘調査を実施した青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野に所在する長瀨池遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書に記載される内容は、平成20年度および平成21年度に実施した野尻本線道路整備事業に係る発掘調査成果をまとめたものである。
3. 本遺跡は、青森県埋蔵文化財包蔵地台帳に遺跡番号201-341として登録されている。
4. 本書の執筆ならびに編集は、青森市教育委員会が行った。執筆分担は各文末に記した。
5. 出土遺物および記録図面、写真関係資料は青森市教育委員会が保管している。
6. 引用・参考文献は巻末にまとめた。
7. 発掘調査および報告書の作成にあたって、次の各機関・各位からご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

青森県教育庁文化財保護課、青森市浪岡事務所都市整備課、青森市史編さん室、木村浩一、工藤清泰、神 康夫

## 凡 例

1. 挿図番号および表番号、写真図版番号は本書を通じて連続するものとし、「第○図」、「第○表」、「写真○」と表記した。
2. 遺構の略称は、堅穴遺構＝S I、土坑＝S K、小ピット＝S P、溝状遺構＝S Dである。また、遺構内土坑＝S K（例：SI-01内SK 1）、遺構内ピット＝P i t（例：SD-01内Pit 1）とした。遺物実測図には括弧内に出土遺構あるいは出土グリッドを明記した。
3. 図中で使用したアルファベットを用いた略称は、ロームブロック＝L Bである。
4. 挿図の縮尺は各図毎に示した。また、写真図版の縮尺は統一していない。
5. 遺物実測図・遺物写真図版の縮尺は、1/2である。なお、遺物写真図版には、個々に挿図（遺物実測図）の図版番号を付してある（例：10-1＝第10図1）。
6. 土層の注記は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
7. 図中で使用したスクリーントーンは、以下の通りである。なお、須恵器断面は黒ベタで示した。

地 山



# 目 次

序	
例言・凡例	
目次	
図表・写真目次	
第 I 章 調査の概要	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査要項	1
第 3 節 調査方法	3
第 4 節 調査経過	3
第 II 章 遺跡の概要	5
第 1 節 地理的・歴史的環境	5
第 2 節 基本層序	7
第 III 章 検出遺構と出土遺物	11
第 1 節 竪穴遺構	11
第 2 節 土坑	13
第 3 節 小ピット	17
第 4 節 溝状遺構	19
第 5 節 遺構外出土遺物	27
まとめ	31
引用・参考文献	32
写真図版	34
報告書抄録	

## 図表・写真目次

### 挿図

第1図	遺跡の位置	2
第2図	調査区的位置	4
第3図	周辺の遺跡	6
第4図	基本層序	7
第5図	グリッド設定図	8
第6図	遺構配置図	9
第7図	竪穴遺構	12
第8図	土坑(1)	14
第9図	土坑(2)	16
第10図	小ピット	18
第11図	溝状遺構(1)	21
第12図	溝状遺構(2)	24
第13図	溝状遺構(3)	25
第14図	溝状遺構(4)	26
第15図	遺構内出土遺物	28
第16図	遺構外出土遺物	29

### 表

第1表	周辺の遺跡	6
第2表	遺構内出土遺物観察一覧	30
第3表	遺構外出土遺物観察一覧	30

### 写真図版

写真1	検出遺構(1)	34
写真2	検出遺構(2)	35
写真3	検出遺構(3)	36
写真4	検出遺構(4)	37
写真5	検出遺構(5)	38
写真6	検出遺構(6)	39
写真7	検出遺構(7)	40
写真8	検出遺構(8)	41
写真9	検出遺構(9)	42
写真10	検出遺構(10)	43
写真11	出土遺物	44

# 第Ⅰ章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

青森市浪岡事務所都市整備課（以下、都市整備課）は、青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野に所在する野尻本線道路の拡幅工事を計画し、平成18年6月12日、青森市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」を提出した。遺跡地図と照合した結果、対象地が長溜池遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号201-341）に該当していたことから、文化財課は平成20年4月21日～4月25日の日程で確認調査を実施することとなった。開発予定地に42ヶ所のトレンチを設定し、遺構確認を行ったところ（調査面積117㎡）、4ヶ所のトレンチから5基の遺構プランを検出した（青森市教育委員会2009）。

確認調査の結果を受けて、都市整備課と再度協議し、平成20年9月1日～10月15日および平成21年7月30日～9月11日の日程で発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査要項

### 1. 調査の目的

道路改良工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を図るとともに、地域における文化財の活用に資する。

### 2. 遺跡名および所在地

長溜池遺跡（青森県埋蔵文化財包蔵地台帳番号 201-341）

青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野

### 3. 発掘調査期間

平成20年9月1日～10月15日

平成21年7月30日～9月11日

### 4. 調査面積

626㎡（平成20年度：429㎡、平成21年度：197㎡）

### 5. 調査委託者

青森市浪岡事務所都市整備課

### 6. 調査受託者

青森市教育委員会事務局文化財課

### 7. 調査担当機関

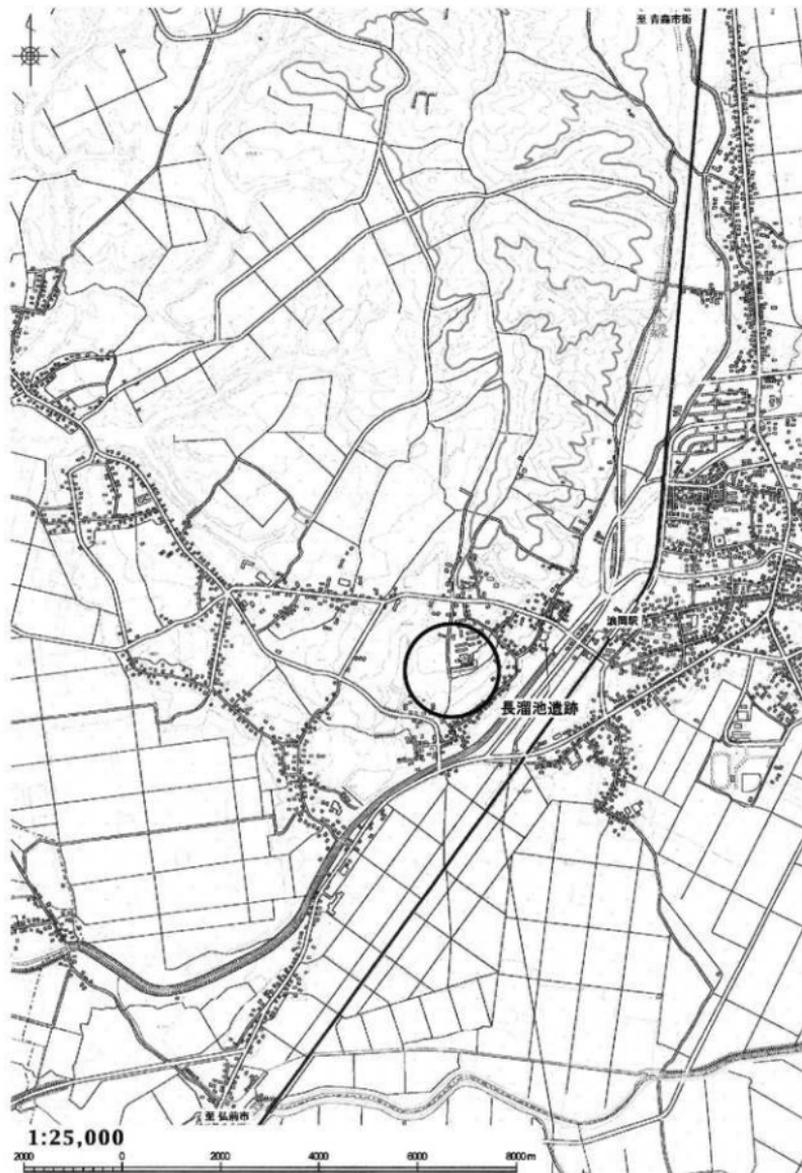
青森市教育委員会事務局文化財課

### 8. 調査指導機関

青森県教育庁文化財保護課

### 9. 調査体制（平成20年度） 調査事務局 青森市教育委員会

教育長	角田詮二郎	文化財主事	児玉 大成（調整担当）
教育部長	古山 晋猛	◇	設楽 政健（調査担当）
教育次長	今村 貴宏	主 事	越谷美由紀（庶務担当）
録・文化財課事務課	遠藤 正夫	◇	竹ヶ原亜希（◇）
主 幹	藤村 和人	埋蔵文化財調査員	野坂 知広
文化財主査	小野 貴之	調査補助員	葛西かおり・瀧江山卑子・安田武英
◇	木村 淳一	整理作業員	工藤るり子・柴田園子



第1図 遺跡の位置

## 10. 調査体制（平成21年度） 調査事務局 青森市教育委員会

教 育 長	月水 良彦	文化財主査	児玉 大成（調整担当）
教 育 部 長	小林 順	文化財主事	設楽 政健（調査担当）
教 育 次 長	今村 貴宏	主 事	高石 知世（庶務担当）
文化財課長	遠藤 正夫	〃	吹田 夕貴（ 〃 ）
主 幹	上野富上子	〃	野馬 広将（ 〃 ）
文化財主査	小野 貴之	埋蔵文化財調査員	野坂 知広
〃	木村 淳一	調査補助員	葛西かおり・溝江由里子・安田 武実
		整理作業員	工藤るり子・柴田 園子

## 第3節 調査方法

調査区は、旧町道沿いにあたるため、ほぼ南北に細長い形状を呈している（第2図）。公共座標に基づいた任意の起点から、調査区全体が網羅されるように4×4mのグリッドを設定した（第5図）。グリッドの呼称は、東側に向かってA、B、C…の順にアルファベット、南側に向かって1、2、3…の順に算用数字を付し、両者の組み合わせで示した（例：A-1グリッド）。測量原点は、付近に適当な基準点が存在しなかったため、国道7号沿いの水準点（標高22.6m）より移動を行った。

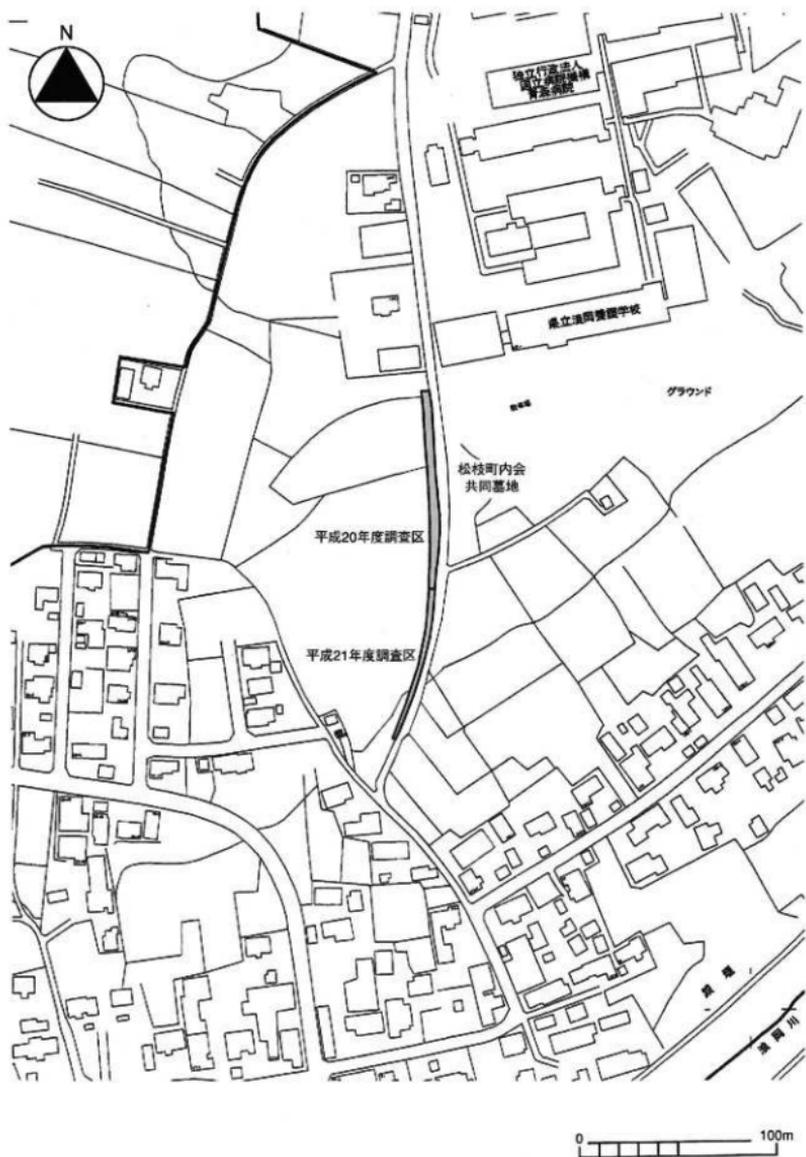
発掘調査は、確認調査における遺構確認面（地山ローム層上面）まで重機で慎重に表土を剥ぎ取り、確認された遺構について順次精査していく方法をとった。遺構精査は、4分法および2分法を用いて断面図を作成し、平面図は簡易遣り方測量とトータルステーションを併用した。縮尺は原則として20分の1とし、写真は土層断面、完掘状況を中心に撮影し、デジタルカメラを使用した。

層位名は、基本層序を「I、II、III…」の順にローマ数字、遺構覆土層序を「1、2、3…」の順に算用数字で表記し、別遺構との重複層序については「①、②、③…」など各種数字を併用した。出土遺物の取り上げは、原則として遺構単位、グリッド単位で行い、層位の分かるものについては注記を加えた。

## 第4節 調査経過

平成20年9月1日、発掘調査開始。機材搬入・プレハブ内の環境整備後、調査区北側より重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、働簾がけにより遺構確認を行った。調査区は南側に向かって緩やかに傾斜しており、一部、表土堆積が厚い箇所があった。堅穴遺構2基、土坑5基、小ピット4基、溝状遺構6条を検出し、調査区北側から順に遺構精査を実施した。10月15日に平成20年度の作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。

平成21年7月30日、発掘調査再開。機材搬入・プレハブ内の環境整備後、前年度調査区の南側から重機による遺構確認面までの掘削を行い、その後、働簾がけにより遺構確認を行った。土坑8基、小ピット3基、溝状遺構5条を検出し、平成21年度調査区北側から順に遺構精査を実施した。9月11日にすべての作業を終了し、機材・プレハブ等を撤収した。（設楽 政健）



第2図 調査区的位置

## 第Ⅱ章 遺跡の概要

### 第1節 地理的・歴史的環境

長沼池遺跡は、青森県青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野地内に所在し（第1図）、浪岡川と大釈迦川の合流地点右岸の低位段丘上、標高30～40m内外の緩斜面に占地する（第3図）。青森市浪岡地区（旧南津軽郡浪岡町）は、津軽平野の北東端に位置するが、北西部と東部に山地・丘陵地、南部に平野が広がる地勢を呈している。発見されている遺跡のほとんどが丘陵地・丘陵縁辺部に所在し、縄文時代および平安時代の集落遺跡がその主体を占める。また、微高丘陵上には中世城館が築城されることも珍しくない。現在、本遺跡のある前山野目台地南縁部は宅地・果樹園などに利用されており、十川・浪岡川・大釈迦川流域の低地では水田耕作が行われている。北方に梵珠山、東方に八甲山連峰、南西に岩木山を仰ぎ見る絶好の景観にあり、南方の平野部を一望することもできる。本遺跡の立地する標高30～40mの緩斜面は、大釈迦川に面する台地東側で狭く、十川に面する台地南西側で大きく開けている。特に、平野部に接する前田野目台地縁辺部は、遺跡の密集する地域として知られており、豊富な湧水に恵まれていることも関係するのであろう。

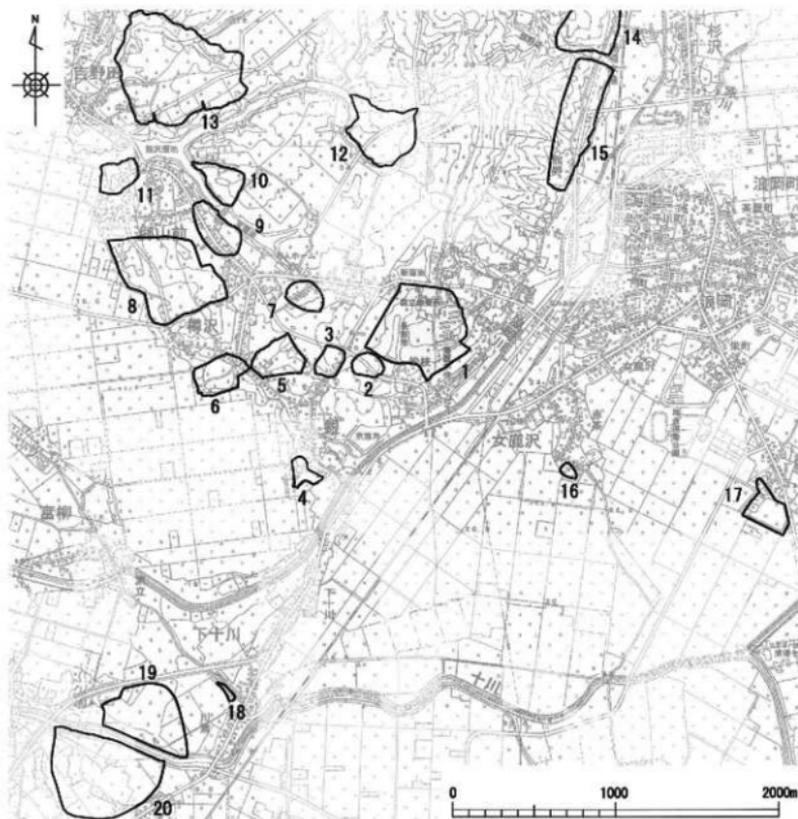
前田野目台地東縁部には野尻遺跡群の通称もある平安時代の集落遺跡が集中しており、国道7号浪岡バイパス建設工事に伴い調査された山本遺跡・野尻（1）遺跡・野尻（4）遺跡・野尻（2）遺跡・野尻（3）遺跡・高屋敷館遺跡・山元（1）遺跡・山元（2）遺跡・山元（3）遺跡からは、膨大な量の遺構・遺物が検出され、平安時代（9世紀～11世紀）を通じて集落が継続されていたことが判明した。また、国史跡に指定された高屋敷館遺跡からは10世紀～12世紀の環濠集落（防衛性集落）が発見されている（青森県教育委員会1998bほか）。北西に約3kmほど離れた五所川原市東部の前田野目川流域には、五所川原須恵器窯跡群が所在し、当地が古代津軽における一大中心地であったと想定される所以ともなっている。

本遺跡の占地する前山野目台地南縁部にも平安時代の遺跡が散在しており、本遺跡をはじめ杉田遺跡・大林遺跡・銀前田遺跡・神明宮遺跡・山神宮遺跡・樽沢村元遺跡・郷山前村元遺跡・上野遺跡・熊沢溜池遺跡・樽沢上野遺跡・中平遺跡などがある。発掘調査が実施された遺跡は少ないが、現在、リング果樹園などに利用されている緩斜面上には、数多くの集落遺跡が埋蔵されているものと思われる。

今回の調査区は、本遺跡を南北に縦断する野尻本線道路沿いのリング果樹園に所在し、調査区北端と南端の比高差は約9mである。平成12年度（2000）には、この道路を挟んで北側に隣接する浪岡養護学校の実習地整備事業に伴い青森県埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施されている（青森県教育委員会2001）。出土遺物は尠少であったものの、平安時代（9世紀後葉～10世紀初頭）の所産と推定される円形周溝遺構7基、土坑2基が検出され、墓域であった可能性が指摘されている。また、近世・近代（18世紀前半以降）の上葬墓や石造仏（地蔵像）が検出されており、調査区に隣接する松枝町内会共同墓地に関連する遺構・遺物と思われる。墓地内には江戸時代の記年銘を持った墓碑も散見される。

平成20年度の調査に先立って実施された確認調査においても、トレンチ内からの出土遺物はなく、周辺から須恵器壺の小片が1点採集されたのみであった（青森市教育委員会2009）。しかし、北西方向に緩斜面を上がった畑地からは縄文土器（前期主体）が多く採集されており、遺跡の中心域はやはり斜面を上りきった丘陵平坦部にあるものと思われる。

（野坂 知広）



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	文献
1	201-341	長渚池遺跡	青森市浪岡大字松枝字野尻	散布地・墳墓	縄文(中・晩)、平安	青森県教育委員会2001、青森市教育委員会2009
2	201-385	杉田遺跡	青森市浪岡大字榎字杉田	散布地	平安	
3	201-342	大林遺跡	青森市浪岡大字榎字杉田	散布地	平安	
4	201-411	銀前田遺跡	青森市浪岡大字榎字前田	散布地	平安	
5	201-339	神明宮遺跡	青森市浪岡大字榎字杉田	散布地・黒塚跡	縄文(前・晩)、平安	青森市教育委員会2007
6	201-340	山神宮遺跡	青森市浪岡大字榎沢字村元	散布地	縄文(晩)	青森市教育委員会2007
7	201-412	榎沢村元遺跡	青森市浪岡大字榎沢字村元	散布地	縄文、平安	
8	201-398	龜山前村元遺跡	青森市浪岡大字龜山前字村元	散布地	平安	
9	201-338	上野遺跡	青森市浪岡大字榎沢字村元	散布地	縄文(中・後)、平安	青森県教育委員会2008
10	201-336	鹿沢沼遺跡	青森市浪岡大字榎沢字村元	散布地	平安	
11	201-337	水庫遺跡	青森市浪岡大字瀧山前字水庫	散布地	縄文(前・後)	
12	201-397	榎沢上野遺跡	青森市浪岡大字榎沢字上野	散布地	縄文、平安	
13	201-334	中平遺跡	青森市浪岡大字青野田字平野	散布地	縄文(後)、平安	
14	201-391	杉沢山元(4)遺跡	青森市浪岡大字杉沢字山元	散布地	中世	
15	201-393	山元(3)遺跡	青森市浪岡大字杉沢字山元	散布地	縄文、平安	青森県教育委員会1994、青森市教育委員会2008 b
16	201-415	西畑田遺跡	青森市浪岡大字安籠沢字西畑田	散布地	縄文、平安	
17	201-410	安籠沢遺跡	青森市浪岡大字安籠沢字早瀬田	散布地	平安	
18	201-416	大沼橋遺跡	青森市浪岡大字下十川字大沼橋	散布地	平安	
19	201-343	大沼橋跡	青森市浪岡大字川島字大沼橋	散布地	平安	浪岡町教育委員会1990
20	201-395	富元遺跡	青森市浪岡大字増砥字富元	散布地	平安	青森県教育委員会2003 b

## 第2節 基本層序

基本層序は、平成20年度調査区西壁（A-A'）および平成21年度調査区西壁（B-B'）で観察し、それぞれ6層と10層に分層された（第4図・第6図）。平成20年度基本層序では、攪乱等は少なく、表土下位には自然堆積を確認することができた。本来の遺構面は第II層～第III層にある可能性が高いが、第V層および第VI層上面が遺構確認面ということになる。第VI層は地山確認の指標となるローム層であり、黄灰色軽石混じりの褐色粘土層である。

平成21年度基本層序では、おおむね自然堆積が確認されたが、場所によっては表土がさらに厚く堆積しており、遺構確認面まで1mを超える箇所もあった。表土上位は前年度調査に比べて細かく分層されたが、基本的な堆積傾向は同様であろう。第IX層は漸移層、第X層は地山ローム層であり、それぞれ前年度調査の第V層、第VI層に相当する。

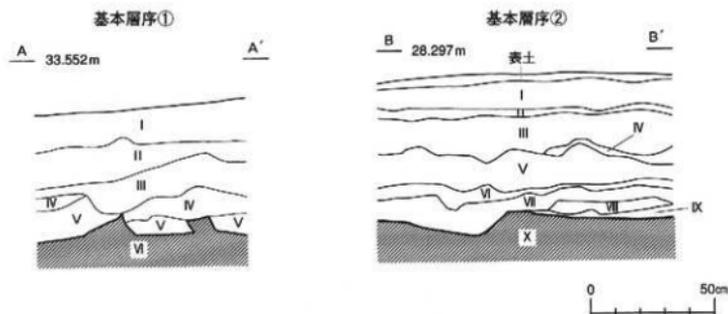
(野坂 知広)

## 基本層序①（A-A'）

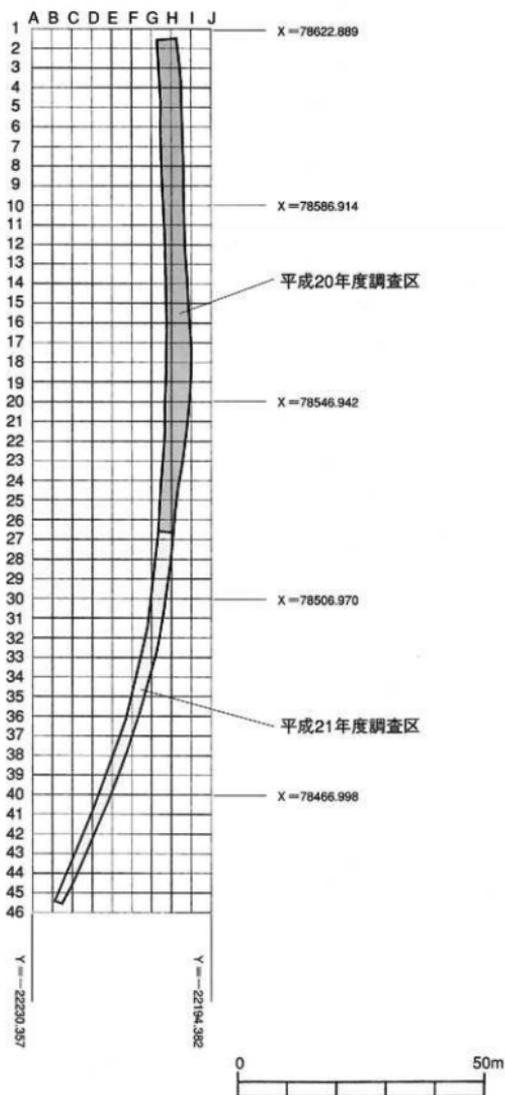
- 第I層 黒色土（10YR2/1）ローム粒（ $\phi 1\sim 0\text{mm}$ ）中量、植物根多量  
 第II層 黒褐色土（10YR2/2）ローム粒（ $\phi 3\sim 10\text{mm}$ ）少量  
 第III層 黒褐色土（10YR2/3）ローム粒（ $\phi 2\sim 4\text{mm}$ ）極微量  
 第IV層 黒褐色土（10YR3/1）ローム粒（ $\phi 2\sim 4\text{mm}$ ）少量  
 第V層 にぶい黄褐色土（10YR4/3）漸移層、ローム粒（ $\phi 3\sim 10\text{mm}$ ）多量  
 第VI層 褐色土（10YR4/4）地山ローム層（黄灰色軽石混在）

## 基本層序②（B-B'）

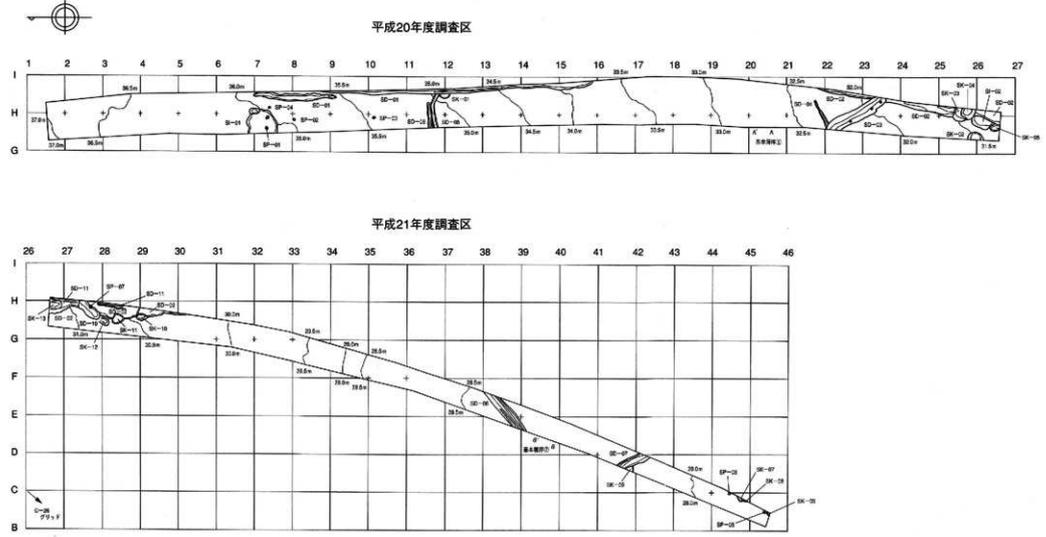
- 第I層 黒色土（10YR2/1）炭化物（ $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ）少量、焼土粒（ $\phi 2\text{mm}$ ）微量  
 第II層 黒褐色土（10YR2/2）炭化物（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）微量、パミス（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）少量  
 第III層 黒褐色土（10YR3/1）炭化粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）少量、焼土粒（ $\phi 2\sim 4\text{mm}$ ）少量  
 第IV層 黒褐色土（10YR2/3）パミス（ $\phi 1\sim 1.5\text{mm}$ ）少量、炭化物（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）微量  
 第V層 黒色土（10YR1.7/1）パミス（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）微量、炭化粒（ $\phi 2\sim 4\text{mm}$ ）少量、焼土粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）少量、B-T m中量混入  
 第VI層 黒褐色土（10YR2/2）炭化粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）少量、焼土粒（ $\phi 3\sim 5\text{mm}$ ）少量、B-T m少量混入  
 第VII層 黒褐色土（10YR3/2）パミス（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）少量、ロームブロック（ $\phi 10\text{mm}$ ）極微量  
 第VIII層 黒褐色土（10YR3/3）パミス（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）微量、炭化粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）微量  
 第IX層 にぶい黄褐色土（10YR4/3）漸移層、パミス（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）微量  
 第X層 褐色土（10YR4/4）地山ローム層（黄灰色軽石混在）



第4図 基本層序



第5図 グリッド設定図



第6図 遺構配置図

### 第三章 検出遺構と出土遺物

平成20年度（2008）および21年度（2009）の調査で検出された遺構は、竪穴遺構2基・土坑13基・小ピット7基・溝状遺構11条である。以下、遺構毎に詳述するが、明確に住居跡と判断できる遺構はなく、調査範囲も狭かったために全体像までは判明しなかった。出土遺物には、おおむね縄文時代（早期・前期）と平安時代（10世紀前半）、近世（江戸時代）、近現代があるが、検出遺構の多くは平安時代（10世紀代）に属するものと思われる。遺構内出土遺物の詳細は観察表（第2表）にまとめた。

#### 第1節 竪穴遺構

##### 第1号竪穴遺構（SI-01、第7図）

H・I-6・7グリッドに位置し、西側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸339cm×現存短軸262cm×深さ44cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は20層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。ただし、第20層のみは人為堆積の可能性がある。

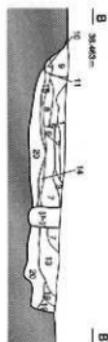
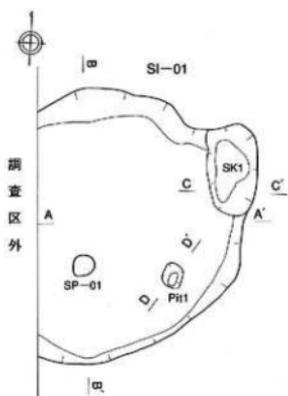
底面からは土坑1基、ピット1基が検出されたが、カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。SI-01内SK1はSI-01の北東隅に位置し、平面は隅丸長方形を呈す。規模は長軸113cm×短軸63cm×深さ14cmを測り、断面は緩やかに立ち上がる。土坑覆土は5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。SI-01内Pit1は不整形を呈し、規模は長軸27cm×短軸24cm×深さ26cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。ピット覆土は1層であった。土坑・ピットともにその性格は判然としない。

出土遺物は、須恵器片が1点（第15図1）と土師器片が3点（第15図2～4）あり、本住居跡の帰属時期の指標となりうる資料であろう。おおむね平安時代（10世紀前半）に推定される。縄文時代の上製耳飾も1点（第15図5）出土しているが、周辺より流れ込んだものと考えられる。

##### 第2号竪穴遺構（SI-02、第7図）

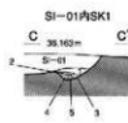
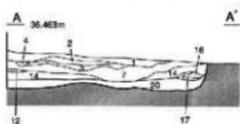
H-25・26グリッドに位置し、北端がSK-03・04に、東側部分がSD-02に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸234cm×現存短軸115cm×深さ47cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は10層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。土層観察の結果からはSD-02との区別が困難であり、同時期に構築されたか、あるいはSD-02と一体の遺構である可能性も考えられる。底面からピット等は検出されず、カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。本遺構はその規模や形態からすればSK-03・04と同種の遺構と分類すべきであったかもしれないが、若干の規模の相違から土坑ではなく竪穴遺構と認識した。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



SI-01

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 第1層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ1-10m) 中や多量、ロームブロック (φ10-15m) 中量、炭化粒 (φ3-5m) 中量 |
| 第2層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ1-15m) 少量、炭化粒 (φ3m) 微量、ロームブロック (φ12-14m) 微量     |
| 第3層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ2-5m) 少量、炭化粒 (φ4-5m) 少量                         |
| 第4層 黒褐色土 (10YR2/1)    | ローム層 (φ1-5m) 少量、炭化粒 (φ1-5m) 微量                         |
| 第5層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ1-4m) 微量、炭化粒 (φ3-5m) 微量                         |
| 第6層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ2-3m) 微量  |
| 第7層 粘褐色土 (10YR3/3)    | ローム層 (φ1-5m) 少量、ロームブロック (φ10-40m) 多量、炭化粒 (φ2-3m) 微量    |
| 第8層 黒褐色土 (10YR2/1)    | ローム層 (φ1-3m) 少量、炭化粒 (φ3m) 微量                           |
| 第9層 黒褐色土 (10YR2/2)    | ローム層 (φ1-3m) 少量、炭化粒 (φ3m) 微量                           |
| 第10層 黒土 (10YR2/1)     | ローム層 (φ2-2m) 微量  |
| 第11層 黒褐色土 (10YR2/1)   | ロームブロック (φ10-20m) 少量                                   |
| 第12層 灰黄色土 (10YR4/5)   | ローム層 (φ1-3m) 微量  |
| 第13層 灰褐色土 (10YR5/2)   | ローム層 (φ1-6m) 少量、炭化粒 (φ2-3m) 少量                         |
| 第14層 土灰・骨焼土 (10YR4/5) | ローム層 (φ3-6m) 少量、炭化粒 (φ2-4m) 微量                         |
| 第15層 粘土 (10YR4/4)     | ローム層 (φ1-3m) 少量  |
| 第16層 黒褐色土 (10YR2/1)   | ローム層 (φ1-2m) 微量  |
| 第17層 粘土 (10YR4/4)     |  |
| 第18層 土灰・骨焼土 (10YR4/5) |  |
| 第19層 粘褐色土 (10YR3/3)   | ロームブロック (φ10-30m) 少量                                   |
| 第20層 粘土 (10YR4/4)     | 炭リ方 (粘土)、ローム層 (φ2-5m) 中量、炭化粒 (φ3-4m) 少量                |



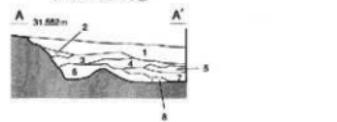
SI-01内SK1

- |                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ2-8m) 中量、炭化粒 (φ1-2m) 微量 |
| 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) | 炭化粒 (φ1-2m) 少量                 |
| 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ3-15m) 微量               |
| 第4層 灰褐色土 (10YR3/2) | ローム層 (φ5-8m) 微量                |
| 第5層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ1-2m) 少量                |

SI-01内Pit1

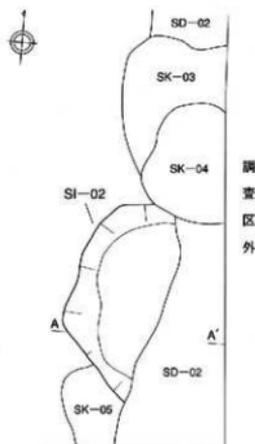
- |                    |                                   |
|--------------------|-----------------------------------|
| 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ2-3m) 微量、ロームブロック (φ15m) 微量 |
| 第2層 灰褐色土 (10YR3/2) | ローム層 (φ3-15m) 少量、炭化粒 (φ2-3m) 微量   |

SI-02・SD-02④



SI-02・SD-02⑤

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ1-15m) 中量、炭化粒 (φ2-4m) 少量               |
| 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) | ローム層 (φ1-8m) 少量                               |
| 第3層 黒褐色土 (10YR2/1) | ローム層 (φ2-8m) 少量、炭化粒 (φ2-3m) 微量                |
| 第4層 黒褐色土 (10YR1/1) | ローム層 (φ3-7m) 微量、炭化粒 (φ2-3m) 少量                |
| 第5層 灰褐色土 (10YR3/2) | ローム層 (φ1-2m) 少量、炭1層 (φ4-5m) 微量                |
| 第6層 灰褐色土 (10YR3/2) | ローム層 (φ1-4m) 少量、炭1層 (φ1-5m) 微量、炭化粒 (φ2-3m) 少量 |
| 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) | ロームブロック (φ20-75m) 少量                          |
| 第8層 黒土 (10YR2/1)   | ローム層 (φ1-2m) 微量                               |



第7図 聖穴遺構

## 第2節 土坑

### 第1号土坑 (SK-01、第8図)

I-11・12グリッドに位置し、東側部分がSD-01に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸107cm×短軸53cm×深さ12cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は1層であるが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第2号土坑 (SK-02、第8図)

H-25・26グリッドに位置し、西側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸194cm×短軸88cm×深さ52cmを測る。断面はやや急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は6層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第3号土坑 (SK-03、第8図)

H・I-25グリッドに位置し、東側部分が調査区外にある。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸151cm×現存短軸127cm×深さ20cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。平面図ではSD-02を切っているように見えるが、実際にはSD-02・SK-04に切られている。遺構の深さも本来はもっと深かったのであろう。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第4号土坑 (SK-04、第8図)

H・I-25グリッドに位置し、東側部分が調査区外にある。SD-02に切れ、SK-03を切っている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸148cm×現存短軸100cm×深さ47cmを測る。SK-03同様、本来はもっと深い遺構であったものと思われる。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は13層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

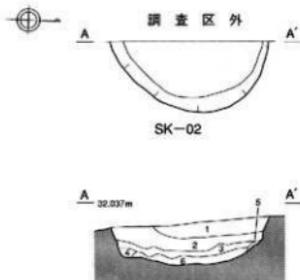
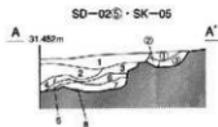
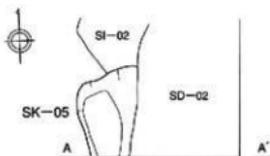
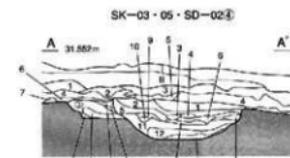
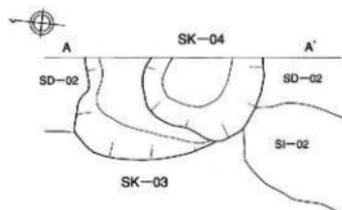
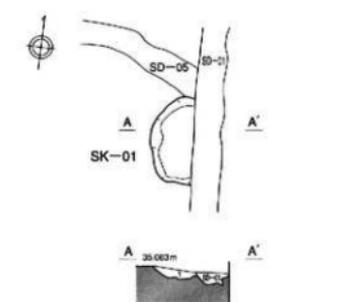
### 第5号土坑 (SK-05、第8図)

H-26グリッドに位置し、南側部分が調査区外にある。また、SI-02・SD-02に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸112cm×短軸73cm×深さ19cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

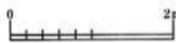
出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第6号土坑 (SK-06、第9図)

C-45グリッド、調査区最南端に位置し、SP-05に切られる。平面はおそらく不整楕円形を呈し、規模は現存長軸51cm×現存短軸28cm×深さ39cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



- SK-01**  
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ2-6mm) 少量、炭化粒 (φ1-3mm) 微量、ロ-ムブロック (φ13mm) 微量
- SK-02**  
 第1層 赤褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ1-3mm) 中量  
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-4mm) 少量、炭化粒 (φ1-2mm) 微量  
 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-10mm) 中量、ロ-ムブロック (φ13-50mm) 少量  
 第4層 黒色土 (10YR0/1) □-ム粒 (φ2-3mm) 中量  
 第5層 褐色土 (10YR5/6) □-ム粒 少量  
 第6層 灰色土 (10YR0/1) □-ム粒 (φ2-8mm) 中量
- SD-02②**  
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-7mm) 少量  
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-4mm) 少量、炭化粒 (φ1-3mm) 少量  
 第3層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ2-3mm) 少量、炭化粒 (φ2-6mm) 少量  
 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-6mm) 中量、ロ-ムブロック (φ20mm) 微量、炭化粒 (φ2-3mm) 微量  
 第5層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ2-3mm) 少量  
 第6層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ1-7mm) 中量、炭化粒 (φ1-3mm) 微量  
 第7層 赤褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ3-8mm) 中量
- SK-03**  
 第1層 灰褐色土 (10YR6/2) □-ム粒 (φ2-13mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 微量  
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ2-5mm) 少量  
 第3層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ2-10mm) 中量、ロ-ムブロック (φ28-70mm) 少量  
 第4層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-11mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 少量  
 第5層 褐色土 (10YR5/1)
- SK-04**  
 第1層 褐色土 (10YR4/1) □-ム粒 (φ2-6mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 微量、粘土質  
 第2層 灰青褐色土 (10YR4/2) □-ム粒 (φ1-3mm) 微量、炭化粒 (φ2-3mm) 少量、粘土質  
 第3層 褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ2-3mm) 微量、炭化粒 中量  
 第4層 褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ2-5mm) 少量  
 第5層 灰褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ2-10mm) 少量、ロ-ムブロック (φ20-30mm) 少量  
 第6層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ2-3mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 微量  
 第7層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ4mm) 微量  
 第8層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ4mm) 微量  
 第9層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ1-3mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 少量  
 第10層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ2-3mm) 微量  
 第11層 褐色土 (10YR5/2) 砂粒多量  
 第12層 灰青褐色土 (10YR4/2) □-ム粒 (φ4-8mm) 微量、炭化粒 (φ1-2mm) 微量、粘土質  
 第13層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ3-10mm) 少量、炭化粒 (φ2-6mm) 少量  
 第14層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ3-10mm) 少量、炭化粒 (φ2-6mm) 少量
- SK-05**  
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ2-3mm) 中量  
 第2層 褐色土 (10YR5/1) □-ム粒 (φ1-6mm) 少量  
 第3層 灰色土 (10YR1/1) □-ム粒 (φ2-6mm) 少量、炭化粒 (φ2-3mm) 少量
- SD-02③**  
 第1層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ1-2mm) 少量、炭化粒 (φ2-6mm) 少量、にじみ層褐色土 (10YR1/2) 粘土質 (φ4-10mm) 微量  
 第2層 黒褐色土 (10YR2/2) □-ム粒 (φ4-6mm) 少量、にじみ層褐色土 (10YR1/2) 粘土質 (φ1-6mm) 微量  
 第3層 灰色土 (10YR0/1) □-ム粒 (φ2-6mm) 少量  
 第4層 褐色土 (10YR4/1) □-ム粒 (φ1-5mm) 少量、炭化粒 (φ1-2mm) 微量  
 第5層 赤褐色土 (10YR5/2) □-ム粒 (φ1-5mm) 微量  
 第6層 赤褐色土 (10YR4/1) □-ム粒 (φ1-6mm) 少量  
 第7層 黒褐色土 (10YR2/1) □-ム粒 (φ2-6mm) 中量、炭化粒 (φ1-3mm) 微量  
 第8層 にじみ層褐色土 (10YR1/2) □-ム粒



第8図 土坑(1)

## 第7号土坑 (SK-07、第9図)

C-44グリッドに位置し、東側は調査区外にある。また、SK-08を切っている。平面は不整楕円形を呈し、二つの土坑が重なったような形状をなす。あるいはSK-08と同一遺構であったかもしれない。規模は現存長軸100cm×現存短軸41cm×深さ26cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面は僅かに段差を持つ。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第8号土坑 (SK-08、第9図)

C-44グリッドに位置し、東側は調査区外にある。SK-07に切られている。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸40cm×現存短軸22cm×深さ23cmを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第9号土坑 (SK-09、第9図)

D-41グリッドに位置し、東側は調査区外にある。また、SD-07を切っている。平面は不整円形を呈し、規模は現存長軸110cm×現存短軸57cm×深さ89cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、一部内傾する箇所もある。底面は若干の凹凸を持つ。覆土は5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。ただし、第1層は柱穴痕などの可能性が高く、本来は本遺構とは別遺構の可能性が高い。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第10号土坑 (SK-10、第9図)

H-28・29グリッドに位置し、SD-09と一体であるようにも見える。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸118cm×短軸74cm×深さ30cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。当初、SD-09と同一遺構と考えていたため層序の詳細は不明であるが、覆土はおおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第11号土坑 (SK-11、第9図)

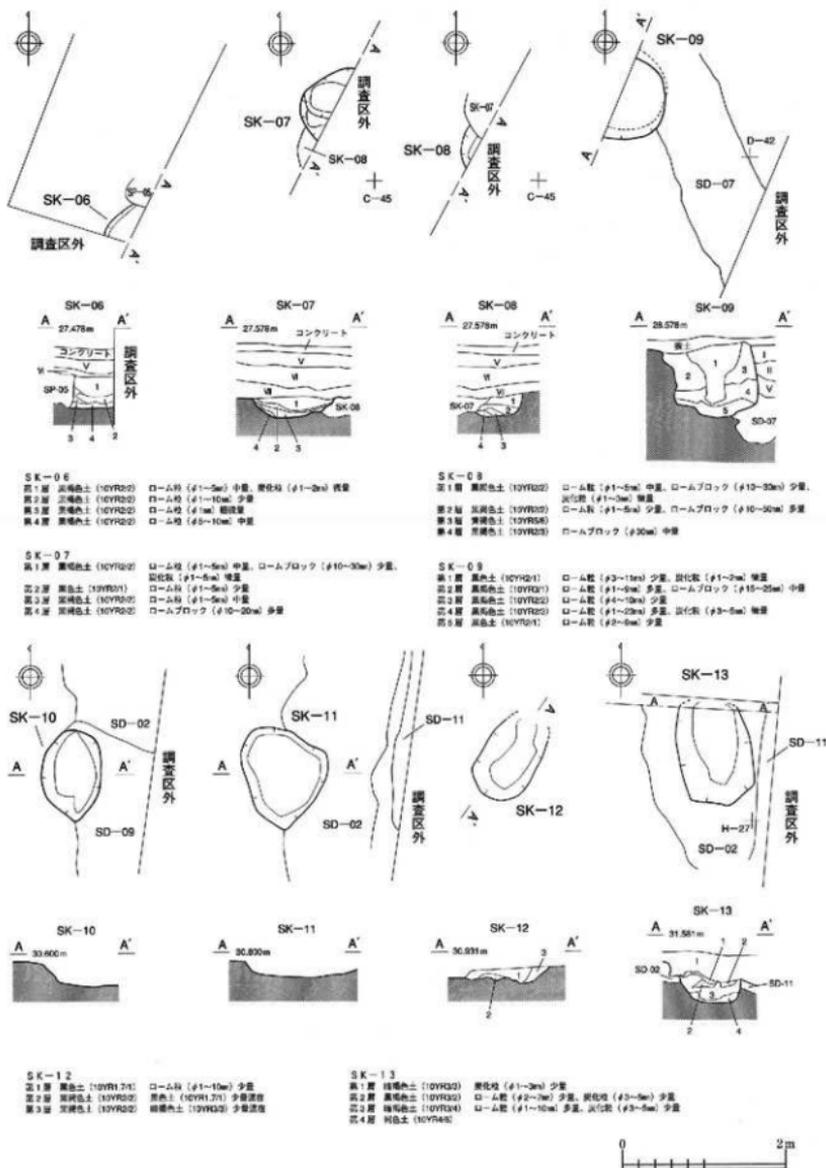
H-28グリッドに位置し、SD-02を切っている。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸119cm×短軸103cm×深さ15cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。当初、SD-02と同一遺構と考えていたため層序の詳細は不明であるが、覆土はおおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第12号土坑 (SK-12、第9図)

H-27・28グリッドに位置し、西端部分が不明瞭である。平面はおそらく不整楕円形を呈するものと思われる。規模は現存長軸100cm×現存短軸69cm×深さ19cmを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面は凹凸を持つ。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



第9図 土坑(2)

### 第13号土坑（SK-13、第9図）

H-26グリッドに位置し、SD-02と一体のようにも見える。平面は不整楕円形を呈し、規模は現存長軸116cm×現存短軸90cm×深さ25cmを測る。ただし、当初はSD-02としていたため、その規模や深さは判然としない。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第3節 小ピット

### 第1号小ピット（SP-01、第10図）

H-7グリッドに位置し、SI-01を切るように構築されている。平面は不整円形を呈し、規模は長軸26cm×短軸25cm×深さ41cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は8層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第2号小ピット（SP-02、第10図）

H-8グリッドに位置する。平面は不整形を呈し、規模は長軸24cm×短軸23cm×深さ20cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、その詳細は不明である。

### 第3号小ピット（SP-03、第10図）

H-10グリッドに位置する。平面は不整形を呈し、規模は長軸23cm×短軸22cm×深さ49cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第4号小ピット（SP-04、第10図）

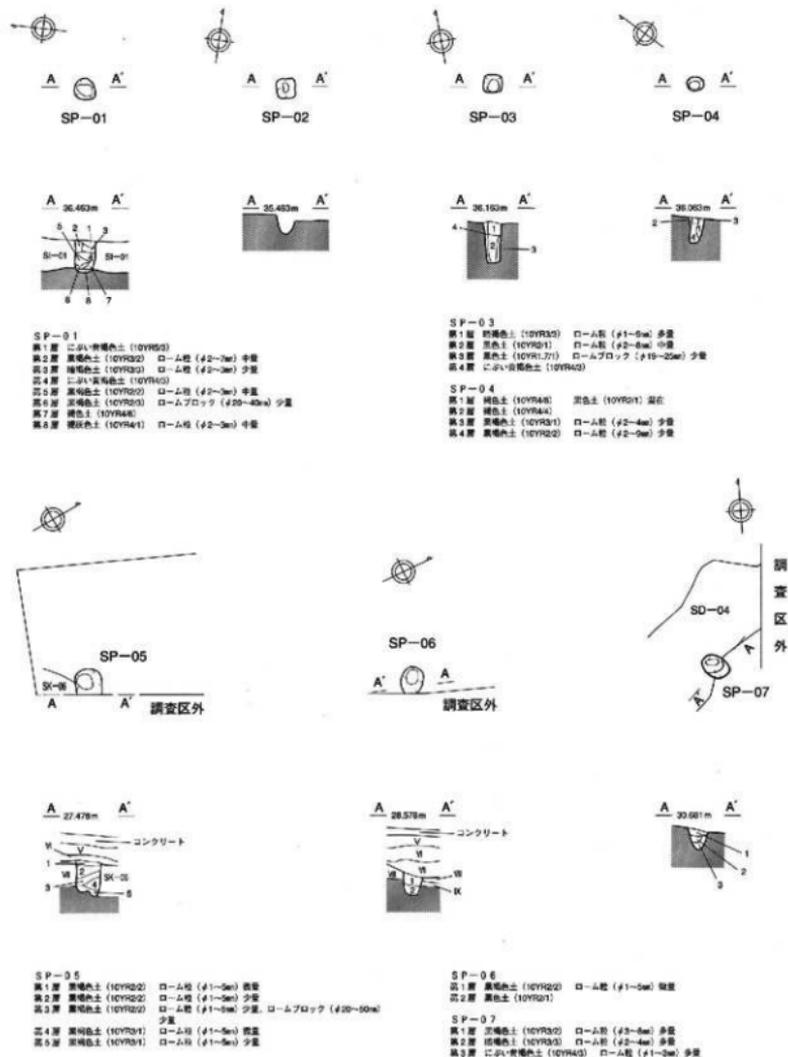
I-7グリッドに位置する。平面は不整楕円形を呈し、規模は長軸21cm×短軸17cm×深さ31cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第5号小ピット（SP-05、第10図）

C-45グリッドに位置し、東端が調査区外にある。SK-06を切っている。平面は不整円形を呈し、規模は現存長軸33cm×現存短軸32cm×深さ42cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は段差を持っている。覆土は5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。



第10図 小ピット

#### 第6号小ピット (SP-06、第10図)

C-44グリッドに位置し、東端が調査区外にある。平面は不整形を呈し、規模は現存長軸32cm×現存短軸26cm×深さ24cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は2層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

#### 第7号小ピット (SP-07、第10図)

H-27グリッドに位置し、SD-10を切っている。平面は不整形を呈し、規模は長軸35cm×短軸25cm×深さ24cmを測る。断面はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第4節 溝状遺構

#### 第1号溝状遺構 (SD-01、第11図)

I-7～15グリッドに位置する。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長35.7m×現存幅0.5m×深さ0.2mを測る。断面は急角度で立ち上がる部分と下位はほぼ垂直に立ち上がり上位で緩やかに外傾する部分がある。底面はほぼ平坦であるが、東側部分が調査区外に位置するため詳細は不明である。覆土は3層～5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。覆土上位からはB-Tm火山灰がまとまって層状に検出された。おそらく本遺構の廃絶後、一定期間を経てから火山灰が降下・堆積したものと思われる。なお、本遺構とSD-02・09・11は途中断絶もあるが、その位置関係から見れば本来は同一遺構である可能性が高い(第6図・第11図)。主軸方向は北(N-6°-W)にある。

出土遺物は、縄文土器・土師器・鉄製品・陶磁器等があるが、小片が多く、図示できたのは縄文土器1点(第15図6)と土師器坏1点(第15図7)、陶磁器3点(第15図8～10)のみであった。第15図6は円筒形を呈する深鉢形土器の口縁部資料と思われ、口縁部にはLR押圧、隆帯にはスリットが観察される。縄文時代前期末葉(円筒下層d式)の所産であろう。第15図8は肥前焼あるいは肥前焼模倣の播鉢、第15図9は磁器小鉢と思われ、第15図10は磁器皿である。第15図10は内面が染付、外面は青磁軸が特徴的である。陶磁器の所産時期はすべて近世～近現代であるが、第15図8・10は近世の遺物であろうか。ただし、本遺構の帰属時期は降下火山灰の堆積状況などからみても平安時代(10世紀前半)の可能性が高い。

#### 第2号溝状遺構 (SD-02、第11図)

H-25・26、I-21～26グリッドに位置する。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長19.5m×現存幅1.2m×深さ0.45mを測る。断面は下位でほぼ垂直に立ち上がり上位で緩やかに外傾する部分が多い。底面は平坦な部分もあるが、東側部分が調査区外に位置するため詳細は不明である。覆土は1層～8層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。前述したようにSD-01・09・11とは同一遺構である可能性が高い。主軸方向は北(N-3°-E)にある。

出土遺物は、土師器・陶磁器等があるが、やはり小片が多く、図示できたのは近現代陶器の土瓶1点(第

15図11)のみであった。第15図11は判然としませんが、信楽焼あるいは信楽焼模倣の汽車土甎の可能性もある。擾乱が激しいが、本遺構の帰属時期はおおよそ平安時代(10世紀前半)であろう。

### 第3号溝状遺構 (SD-03、第12図)

H・I-22・23グリッドに位置する。平面は幅広で僅かに南側へ曲がる形状を呈し、規模は現存長5.9m×現存幅1.4m×深さ0.5mを測る。断面は下位で急角度に立ち上がり、上位で僅かに外傾する。覆土は7層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。底面はほぼ平坦であるが、溝状遺構の南側壁面でピットが3基検出されている。3基とも平面は不整形を呈し、断面はほぼ垂直に立ち上がる。SD-03内ピット1は長軸18cm×短軸15cm×深さ42cm、SD-03内ピット2は長軸20cm×短軸19cm×深さ32cm、SD-03内ピット3は長軸15cm×短軸14cm×深さ38cmを測る。ピット3基はほぼ直線上に並んでおり、櫛列の痕跡かとも思われたが判然としない。主軸方向は北西(N-35°-W)にある。

出土遺物は、土師器・石器等があるが、図ができたのは土師器甕1点(第15図12)と縄文時代の石匙1点(第15図13)のみであった。第15図12はロクロ整形による土師器甕であり、外面にはロクロナデ調整が観察される。第15図13はつまみ部を一部欠損する縦型石匙であり、両側縁の刃部調整は背面では向かって左側縁で顕著となり、右側縁では腹面からの細部調整が主体となる。背面中央部には古い剥離面を残し、石質は珪質頁岩である。ただし、石匙は周辺より流れ込んだものと考えられ、本遺構の帰属時期はおそらく平安時代(10世紀前半)であろう。

### 第4号溝状遺構 (SD-04、第12図)

H-21・22、I-21グリッドに位置し、SD-03に切られている。平面は僅かに凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、東側で収束する。規模は現存長2.4m×現存幅0.4m×深さ0.1mを測る。断面は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東(N-60°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

### 第5号溝状遺構 (SD-05、第13図)

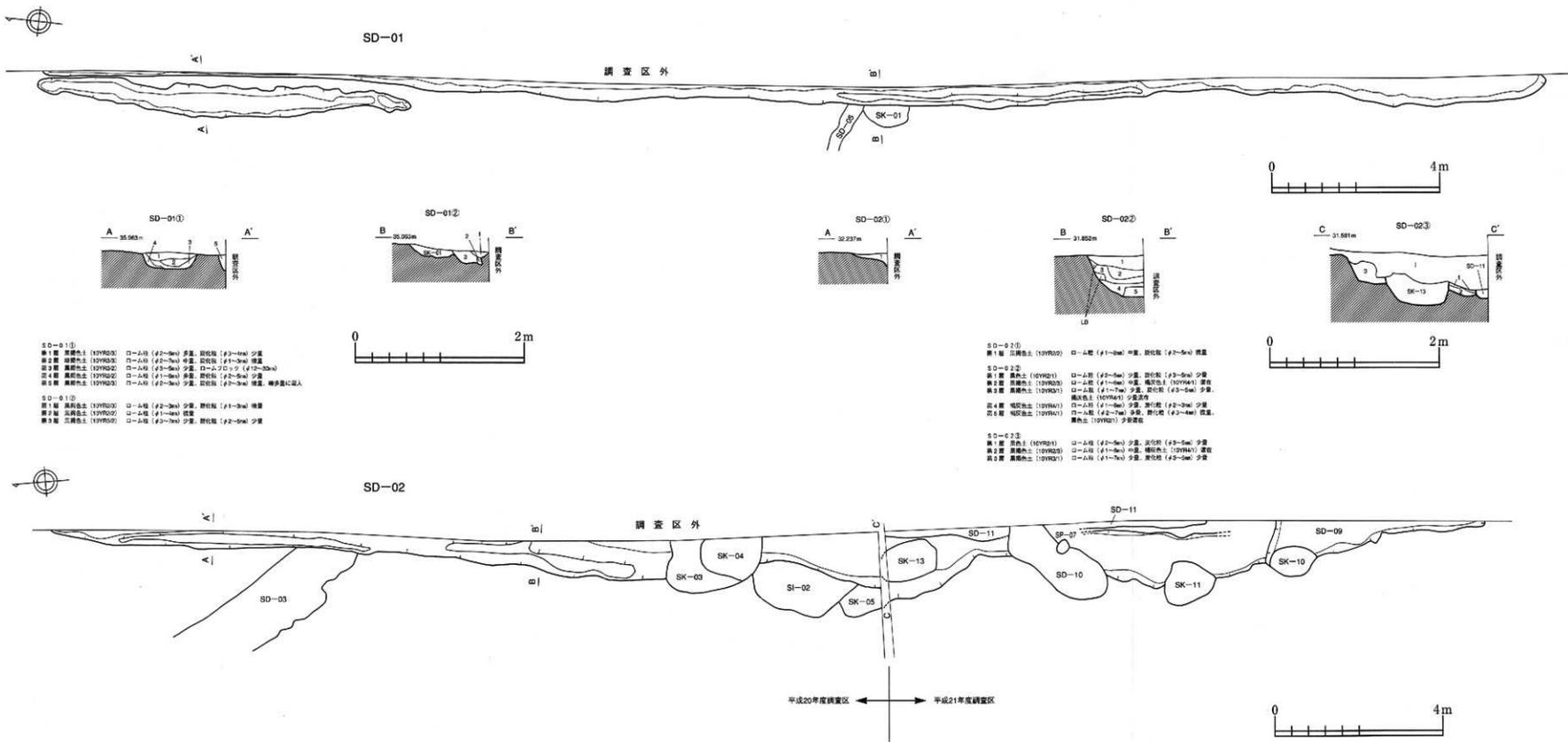
II・I-11グリッドに位置し、東側がSD-01に切れ、西側は調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈するが、途中で南側へ湾曲する。規模は現存長3.5m×現存幅0.5m×深さ0.35mを測り、SD-06と並行して隣接する。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は東(N-85°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。SD-06とセットになると思われ、集落を区画する溝跡の可能性はある。

### 第6号溝状遺構 (SD-06、第13図)

H・I-11グリッドに位置し、西側が調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.6m×現存幅0.4m×深さ0.35mを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は5層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は東(N-85°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。SD-05とセットになると思われ、集落を区画する溝跡の可能性はある。



第11図 溝状遺構 (1)

## 第7号溝状遺構 (SD-07、第13図)

D-41・42、E-42グリッドに位置し、東西両端が調査区外に延びている。また、SK-09に切られている。平面は若干西側へ屈曲するようにも見えるが、ほぼ直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.7m×現存幅0.96m×深さ0.6mを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。また、断面下位で急角度に立ち上がり、断面上位で緩やかに外傾する箇所がある。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北西(N-36°-W)にある。

出土遺物は土師器坏(第15図14)と土師器甕(第15図15)があり、ともに回転糸切痕(右)を持つ底部資料である。本遺構の帰属時期はおそらく平安時代(10世紀前半)と思われる。

## 第8号溝状遺構 (SD-08、第14図)

E-38・39、F-38グリッドに位置し、東西両端が調査区外に延びている。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長4.45m×現存幅1.2m×深さ0.48mを測る。断面は段差を持つようにも見えるが、下位で急角度に、上位で緩やかに外傾して立ち上がるのであろう。底面はほぼ平坦である。覆土は2層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東(N-45°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第9号溝状遺構 (SD-09、第14図)

H-28~30グリッドに位置し、南側で調査区外に延びている。北側はSK-10に切られており、SD-02との連続関係は判然としないため別遺構のように記述した。しかしながら、前述したようにSD-01・02・11とは同一遺構である可能性が高い。平面は僅かな凹凸を持ちながらも直線的な溝状を呈し、規模は現存長5.1m×現存幅0.78m×深さ0.2mを測る。断面は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は3層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北(N-3°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

## 第10号溝状遺構 (SD-10、第14図)

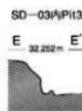
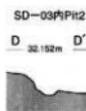
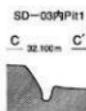
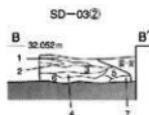
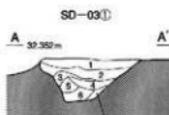
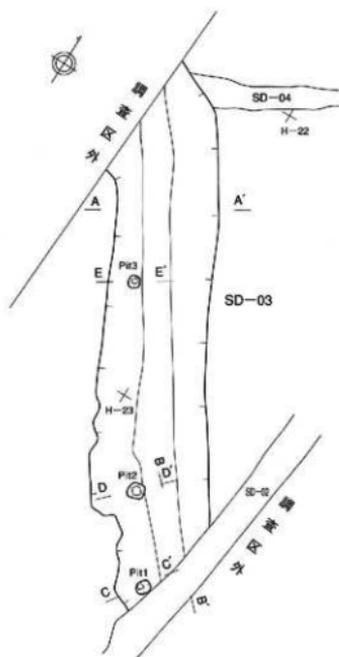
H-27グリッドに位置し、東端が調査区外に延びている。また、SP-07に切られる。SD-02を分断するように切っているが、西端が検出されている。平面は舌状を呈し、規模は現存長2.7m×現存幅1.1m×深さ0.3mを測る。断面は急角度で立ち上がり、底面はほぼ平坦である。覆土は4層に分層されたが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北東(N-42°-E)にある。

出土遺物はなく、本遺構の帰属時期は不明である。

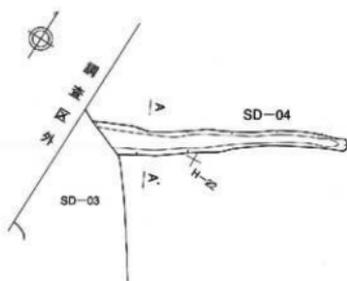
## 第11号溝状遺構 (SD-11、第14図)

H-27・28グリッドに位置し、東側は調査区外にある。北側がどのように続くかは判然とせず、並行するSD-02とは別遺構として記述しているが、前述したように本来はSD-01・02・09と同一遺構の可能性が高い。平面は直線的な溝状を呈し、規模は現存長2.8m×現存幅0.2m×深さ0.4mを測る。断面は急角度に立ち上がり、底面は不明である。当初、SD-02と同一遺構として認識していたため、覆土は不明な部分もあるが、おおむね自然堆積と思われる。主軸方向は北(N-3°-E)にある。

出土遺物はないが、本遺構の帰属時期は不明である。



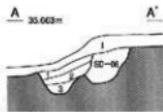
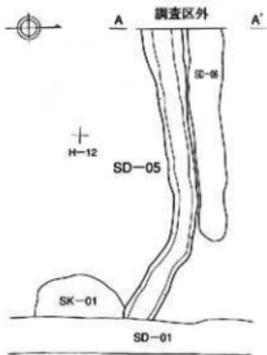
- SD-03
- |                    |                                      |
|--------------------|--------------------------------------|
| 第1層 黄褐色土 (10YR5/4) | ロ-△粒 (φ2-5㎜) 中量、ロ-ムブロック (φ12-15㎜) 少量 |
| 第2層 黄褐色土 (10YR5/3) | ロ-△粒 (φ1-12㎜) 少量、粒化粒 (φ1-2㎜) 少量      |
| 第3層 黄褐色土 (10YR5/2) | ロ-△粒 (φ2-8㎜) 中量                      |
| 第4層 黄褐色土 (10YR5/2) | ロ-△粒 (φ2-8㎜) 中量、次化粒 (φ2-4㎜) 少量       |
| 第5層 黄褐色土 (10YR5/3) | ロ-△粒 (φ3-5㎜) 中量、ロ-ムブロック (φ11-13㎜) 少量 |
| 第6層 黄褐色土 (10YR5/1) | ロ-△粒 (φ1-12㎜) 少量、粒化粒 (φ2-3㎜) 少量      |
| 第7層 黄褐色土 (10YR5/2) | ロ-△粒 (φ2-7㎜) 少量、ロ-ムブロック (φ20㎜) 粒化粒   |



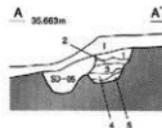
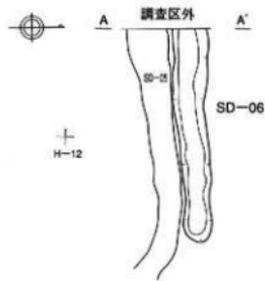
- SD-04
- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 第1層 黄褐色土 (10YR5/2) | ロ-△粒 (φ1-3㎜) 中量 |
| 第2層 黄褐色土 (10YR5/1) | ロ-△粒 (φ3-5㎜) 少量 |



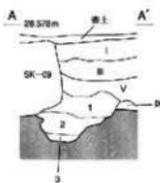
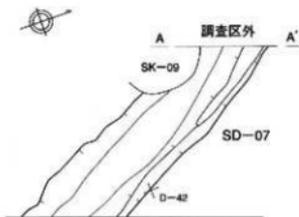
第12図 溝状遺構 (2)



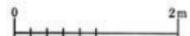
- SD-05
- |                    |                              |
|--------------------|------------------------------|
| 第1層 黒褐色土 (10YR5/3) | ローム層 (φ2~3m) 少量              |
| 第2層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ2~3m) 少量              |
| 第3層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ1~4m) 少量、炭化粒 (φ3m) 少量 |



- SD-06
- |                    |   |
|--------------------|---|
| 第1層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ1~3m) 少量、ロームブロック (φ20cm) 少量、炭化粒 (φ3m) 少量 |
| 第2層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ1~3m) 少量                                 |
| 第3層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ1~3m) 少量                                 |
| 第4層 黒褐色土 (10YR5/1) | ローム層 (φ1~3m) 少量                                 |
| 第5層 黒褐色土 (10YR5/2) | ローム層 (φ2~10m) 少量                                |



- SD-07
- |                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 第1層 赤褐色土 (10YR5/2) | 砂土 (φ1~2m) 少量、炭化粒 (φ2~3m) 少量   |
| 第2層 赤褐色土 (10YR5/1) | ローム層 (φ2~3m) 少量、炭化粒 (φ1~2m) 少量 |
| 第3層 赤褐色土 (10YR5/1) | ロームブロック (φ10~15m) 少量           |



第13図 溝状遺構 (3)

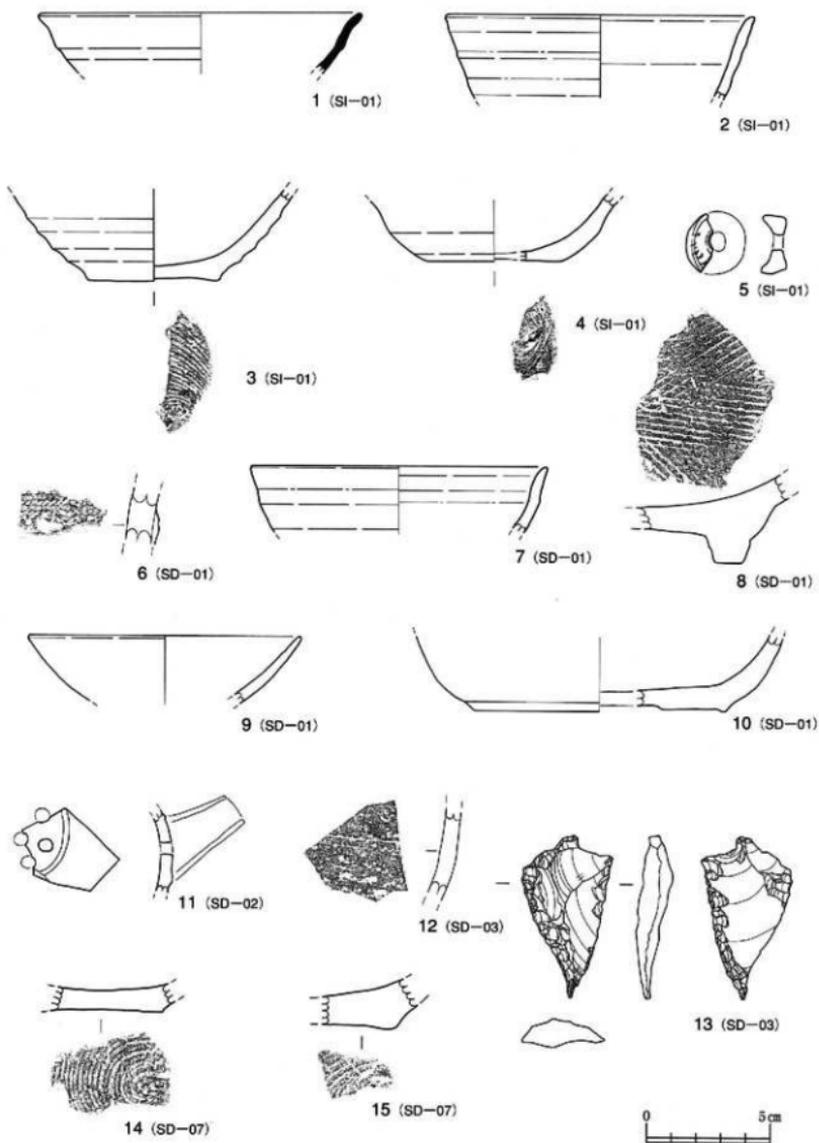


## 第5節 遺構外出土遺物

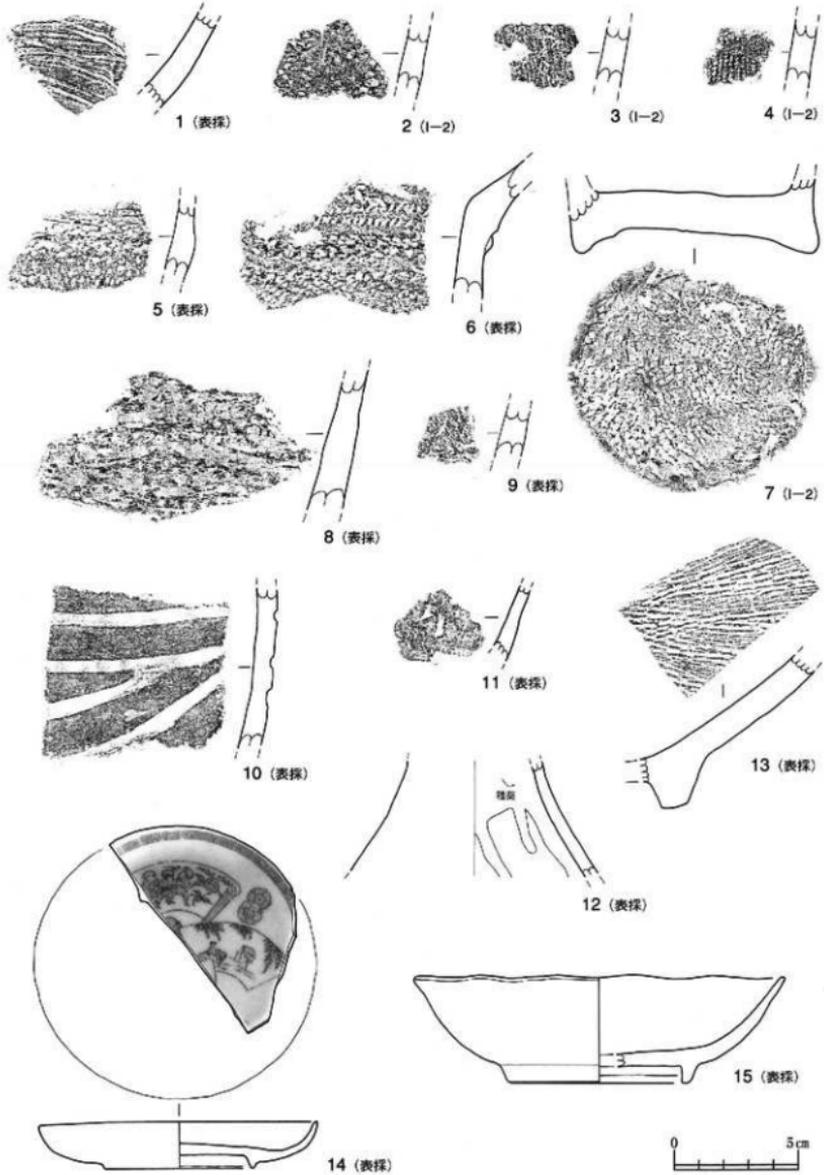
遺構外出土および調査区周辺から表採された遺物は、調査面積の割に少なく、図示できた資料は縄文土器10点(第16図1～10)、土師器1点(第16図11)、陶磁器4点(第16図12～15)であった。第16図1は縄文早期の尖底土器であり、尖底に近い胴部下半の資料であろう。外面には幅の狭い貝殻条痕文が観察され、内面は黒色を呈す。胎土に繊維混入は確認されず、おおよそ早期中葉の白浜・小舟波平式～吹切沢式土器に類するものと思われる。第16図2～8は縄文時代前期末葉(円筒下層d式)の土器であり、ほとんどが円筒形を呈する深鉢形土器の口縁部・胴部資料であろう。単軸緒糸体およびLR斜縄文などが施文される。第16図7のみは、深鉢形土器の底部資料であり、底部中央部が1cmほどくぼむ上げ底状を呈する。底部にも胴部と同じRLR縄文が施文されている。縄文前期の土器は、すべて胎土に繊維が混入される。また、胎土中に観察される海綿骨針も比較的多量であるように感じる。海綿骨針は、本遺跡の占拠する前山野台地(前田野目層)に由来するものであり、当地で製作されたことが証左されよう。第16図9・10は縄文時代後期前葉(下腰内I式)の資料と思われる。第16図9は細い沈線が格子目状に施文される土器であり、第16図10は幅広の沈線が横位・斜位に施文される胴部資料である。

第16図11は土師器甕の胴部資料であり、内外面ともにナデ調整が観察される。第16図12～15は近世～近代の陶磁器である。調査区に隣接する松枝町内会共同墓地に関わる遺物であろうと推定され、同様の出土傾向は平成12年度調査(青森県埋蔵文化財調査センター)においても確認されている。第16図12は細身の磁器徳利と思われ、内面には上部から流れ込んだ釉薬と素焼きの部分の区別がある。第16図13は削り出し高台を持つ肥前IV期(18世紀前半)の播鉢、第16図14・15はともに銅版印刷染付の磁器小皿・小鉢であり、第16図15は酸化コバルト(青色)の鮮やかな発色が特徴的である。なお、第16図1～4・7・11は、調査区内からの出土であるが、第16図5・6・8～10・12～15は、調査区周辺(リンゴ果樹園)からの表採資料である。詳細は観察表(第3表)にまとめた。

(野坂 知広)



第15図 遺構内出土遺物



第16図 遺構外出土遺物

第2表 遺構内出土遺物観察一覧

図版番号	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面	内面	底部	時期	備考
			口径	底径	器高					
第15図1	須恵器杯	SI-01	12.8	—	—	□ク口	□ク口	—	平安時代 (10世紀前半)	
第15図2	土師器杯	SI-01	12.4	—	—	□ク口	□ク口	—	平安時代 (10世紀前半)	
第15図3	土師器杯	SI-01	—	5.2	—	□ク口	□ク口	回転糸切 (右)	平安時代 (10世紀前半)	海綿骨針含む
第15図4	土師器杯	SI-01	—	5.4	—	□ク口	□ク口	回転糸切 (右)	平安時代 (10世紀前半)	海綿骨針含む
第15図7	土師器杯	SD-01	11.9	—	—	□ク口	□ク口	—	平安時代 (10世紀前半)	
第15図8	擂鉢	SD-01	—	—	—	—	擂り目	—	近世・近代	肥前?
第15図9	磁器小鉢	SD-01	10.9	—	—	印刷染付	—	—	近現代	
第15図10	磁器皿	SD-01	—	10.1	—	青磁釉	染付	—	近世・近代	
第15図11	磁器土瓶	SD-02	—	—	—	施釉	無釉	—	近現代	汽車土瓶?
第15図12	土師器壺	SD-03	—	—	—	□ク口ナデ	□ク口	—	平安時代 (10世紀前半)	
第15図14	土師器杯	SD-07	—	—	—	—	—	回転糸切 (右)	平安時代 (10世紀前半)	海綿骨針含む
第15図15	土師器壺	SD-07	—	—	—	—	—	回転糸切 (右)	平安時代 (10世紀前半)	海綿骨針含む

第3表 遺構外出土遺物観察一覧

図版番号	種別	出土位置	詳細		時期	備考
第15図5	土製耳飾	SI-01	穴径、推定径2.5cm、最大厚1.0cm、推定孔径0.7cm、重量2g、滑車形		縄文時代	内面に爪痕
第15図6	縄文土器	SD-01	深鉢、口縁部：LR押圧、隆帯		前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第15図13	凝型石匙	SD-03	最大長6.1cm、最大幅3.6cm、最大厚1.2cm、重量18.0g、珪質頁岩		縄文時代	

第3表 遺構外出土遺物観察一覧

図版番号	器種	出土位置	詳細		時期	備考
第16図1	縄文土器	表探	深鉢、胴部：貝殻条痕文		早期中葉	尖底土器
第16図2	縄文土器	I-2	深鉢、胴部：LR		前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図3	縄文土器	I-2	深鉢、胴部：車軸絡条体第1類		前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図4	縄文土器	I-2	深鉢、胴部：車軸絡条体第1類		前期末葉	繊維混入
第16図5	縄文土器	表探	深鉢、口縁部：車軸絡条体第5類		前期中葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図6	縄文土器	表探	深鉢、口縁部：LR押圧、隆帯、胴部：LR		前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図7	縄文土器	I-2	深鉢、胴部：RLR、底部：RLR		前期末葉	繊維混入、海綿骨針含む
第16図8	縄文土器	表探	深鉢、胴部：胴体不明		前期末葉	繊維混入
第16図9	縄文土器	表探	深鉢、胴部：沈線 (格子目文)		後期前葉	海綿骨針含む
第16図10	縄文土器	表探	深鉢、胴部：沈線		後期前葉	海綿骨針含む

図版番号	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面	内面	底部	時期	備考
			口径	底径	器高					
第16図11	土師器壺	表探	—	—	—	ナデ	ナデ	—	平安時代 (10世紀前半)	
第16図12	磁器徳利	表探	—	—	—	染付	無釉	—	近世・近代	
第16図13	擂鉢	表探	—	—	—	—	擂り目	—	肥前IV期 (18世紀前半)	刷り出し高台
第16図14	磁器小皿	表探	11	6	2	染付	印刷染付	—	近代	
第16図15	磁器小鉢	表探	—	7.2	4.3	印刷染付	印刷染付	—	近代	

## ま と め

長溜池遺跡は、青森市浪岡大字松枝字野尻および女鹿沢字平野地内に所在している。野尻本線道路整備事業に伴い、平成20年9月1日～10月15日および平成21年7月30日～9月11日の日程で工事予定地を対象に発掘調査を実施した(626m<sup>2</sup>)。調査の結果、竪穴遺構2基、土坑13基、小ピット7基、溝状遺構11条を検出したほか、ダンボール箱換算で約3分の1箱分の土器・石器・陶磁器等が出土した。調査区全体は南北に細長く、緩やかに南傾する微高丘陵緩斜面上に占地する。

竪穴遺構は2基検出された。SI-01は、出土遺物の主体が平安時代の土器であり、おそらく9世紀末葉以降、10世紀前半の年代が考えられる。底面から土坑1基とピット1基を検出したが、その性格は不明である。カマド等、住居跡の痕跡は確認できなかった。SI-02は、平面が不整楕円形を呈し、カマド等、住居跡の痕跡は確認されなかった。

土坑は13基検出されたが、他遺構との切り合い関係からおおむね平安時代(10世紀前半)に帰属するものと思われる。その性格は判然としないが、深いものと浅いもの相違があり、SK-03・04などは竪穴遺構に類する可能性もある。土坑はSK-10・11・13などを含めて溝状遺構との重複が多く、規模や帰属時期など不明瞭な部分が多い。

小ピットは7基検出されたが、配列に規格性を窺うことはできず、帰属時期も不明である。概して他の遺構を切るように構築されることが多い。

溝状遺構は11条検出された。帰属時期は判然としないが、他遺構との切り合い関係からはおおむね平安時代(10世紀前半)の遺構と思われる。特に、SD-01覆土上位からはB-Tm火山灰がまとも検出され、その出土状況は平成12年度調査(青森県埋蔵文化財調査センター)における円形周溝遺構のものと似通っている。本溝状遺構の廃絶後、一定期間が経過してから火山灰が降下・堆積したものと考えられ、帰属時期は9世紀末葉以降、10世紀前半と理解できよう。また、SD-01・02・09・11は中間で断絶する部分もあるが、配置や主軸方向などに共通性が強く、同一遺構の可能性が高い。SD-03は幅広で僅かに曲線的な形状を呈し、外周溝を伴う住居跡とも考えられるが、詳細は不明である。SD-07～10なども主軸方向や規模などに近似する傾向が窺える。SD-03の南側壁面からは3基のピットが検出されており、横列あるいは何らかの建物跡であるかもしれない。SD-50・06は2条並行する溝跡と考えられ、排水溝のみでなく、築落を区画していた可能性も考えられる。また、前述のSD-01・02・09・11も2条並行の溝跡であった可能性がある。

長溜池遺跡における本調査区は、やや傾斜のある立地条件なども考慮すると平安集落の縁辺部にあたるものと思われる。遺構同士の切り合い関係は曖昧であり、その帰属時期も判然としないものが多い。また、調査区周辺からは、縄文時代前期末葉(円筒下層d式期)を主体とする土器片が採集されており、丘陵平担部には縄文前期の遺構・遺物が埋蔵されていると考えられる。

(担当者 河)

引用・参考文献

- 青 森 県 2005 『青森県史』資料編考古3（弥生～古代）
- 青森県教育委員会 1987 『山本遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1994 『山元(3)遺跡』
- 青森県教育委員会 1995 a 『山元(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 1995 b 『野尻(2)遺跡』
- 青森県教育委員会 1996 a 『野尻(2)遺跡Ⅱ・野尻(3)遺跡』
- 青森県教育委員会 1996 b 『野尻(4)遺跡』
- 青森県教育委員会 1997 『高屋敷館遺跡発掘調査概報』
- 青森県教育委員会 1998 a 『野尻(1)遺跡Ⅰ』
- 青森県教育委員会 1998 b 『高屋敷館遺跡』
- 青森県教育委員会 1999 『野尻(1)遺跡Ⅱ』
- 青森県教育委員会 2000 『野尻(1)遺跡Ⅲ』
- 青森県教育委員会 2001 『長沼池遺跡』
- 青森県教育委員会 2002 『野尻(1)遺跡Ⅳ』
- 青森県教育委員会 2003 a 『野尻(1)遺跡Ⅴ』
- 青森県教育委員会 2003 b 『宮元遺跡』
- 青森県教育委員会 2004 『野尻(1)遺跡Ⅵ・野尻(2)遺跡Ⅲ』
- 青森県教育委員会 2005 a 『高屋敷館遺跡Ⅲ』
- 青森県教育委員会 2005 b 『山元(1)遺跡』
- 青森県教育委員会 2006 『野尻(3)遺跡Ⅱ』
- 青森県教育委員会 2008 『土野遺跡』
- 青 森 市 2006 『新青森市史』資料編1（考古）
- 青森市教育委員会 2006 『国史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
- 青森市教育委員会 2007 『市内遺跡発掘調査報告書15』
- 青森市教育委員会 2008 a 『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 2008 b 『市内遺跡発掘調査報告書16』
- 青森市教育委員会 2008 c 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
- 青森市教育委員会 2009 『市内遺跡発掘調査報告書17』
- 五所川原市教育委員会 1998 『犬走須志器庫跡発掘調査報告書』
- 五所川原市教育委員会 2003 『五所川原須志器庫跡群』
- 浪 岡 町 2000 『浪岡町史』第1巻
- 浪 岡 町 2004 『浪岡町史』第2巻
- 浪岡町教育委員会 1990 『人沼遺跡発掘調査報告書』
- 浪岡町教育委員会 2004 『野尻(4)遺跡』
- 浪岡町教育委員会 2005 『史跡高屋敷館遺跡発掘調査報告書』『平成16年度浪岡町文化財紀要Ⅴ』
- 三 浦 圭 介 1992 『青森県における古代の土器様相』『北日本における律令期の土器様相』第18回古代城壕官衙遺跡検討会

# 写 真 图 版



平成20年度調査区全景（北→）



平成20年度調査区全景（南→）

写真1 検出遺構（1）

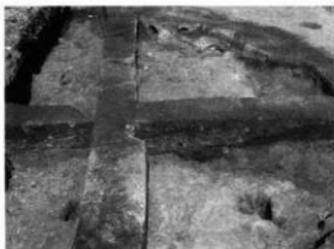


平成20年度調査区北側近景（南→）



平成20年度調査区南側近景（北→）

写真2 検出遺構(2)



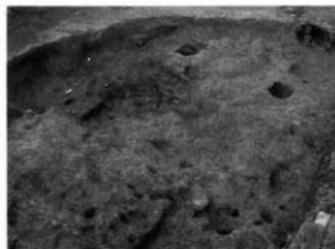
SI-01東西セクション (南→)



SI-01南北セクション (西→)



SI-01完掘 (南西→)



SI-01完掘 (北西→)



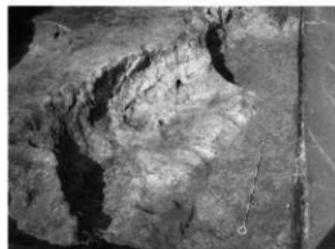
SI-01内ビットセクション (東→)



SI-01内土坑セクション (北→)

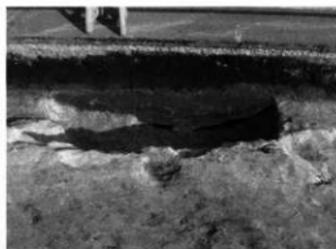


SI-02東西セクション (南→)



SI-02完掘 (南→)

写真3 検出遺構(3)



SK-03・04完掘セクション (西→)



SK-03・04完掘 (奥はSI-02、北→)



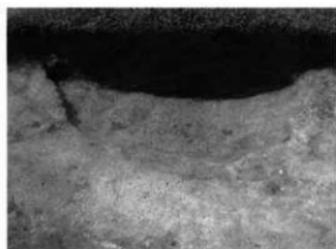
SI-02・SK-05・SD-02完掘 (北→)



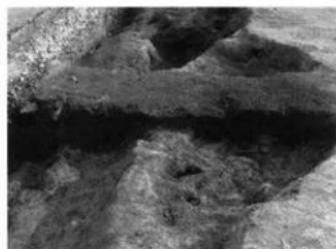
SK-05完掘 (北→)



SK-02セクション (東→)



SK-02完掘 (東→)

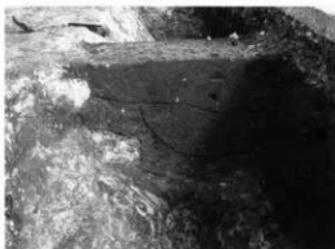


SK-01・SD-01セクション (北→)

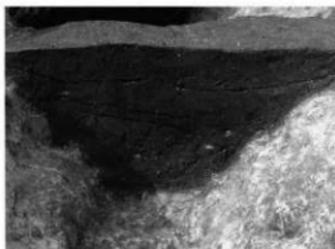


SD-01完掘 (南→)

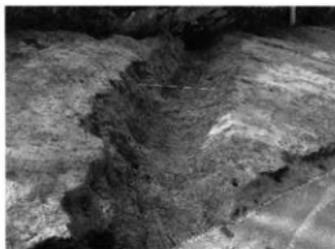
写真4 検出遺構(4)



SD-02セクション (南→)



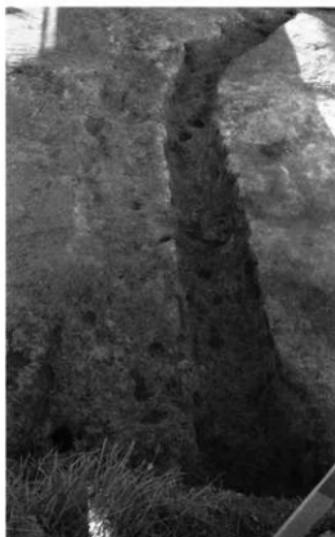
SD-03セクション (東→)



SD-03完掘 (南東→)



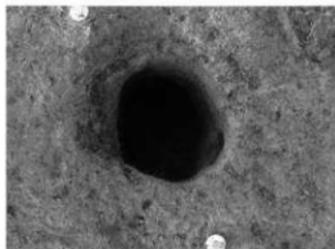
SD-05・06セクション (東→)



SD-05・06完掘 (西→)



SP-03完掘 (南→)



SP-04完掘 (南→)

写真5 検出遺構(5)



平成21年度調査区全景（北→）



平成21年度調査区全景（南→）

写真6 検出遺構(6)



平成21年度調査区北側近景 (北→)



平成21年度調査区南側近景 (南→)



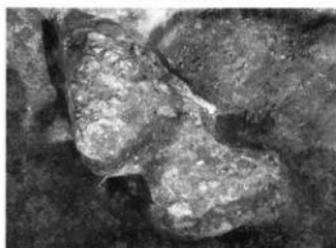
平成20年度基本層序 (東→)



平成21年度基本層序 (東→)



平成21年度調査前風景 (南→)

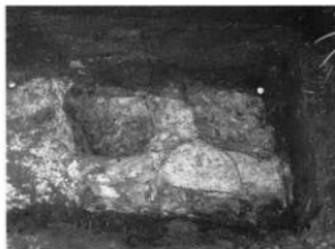


SD-01覆土B-Tm堆積状況 (西→)

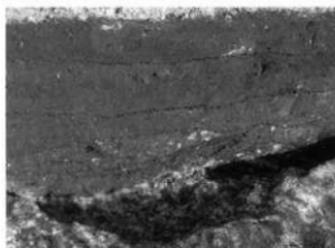
写真7 検出遺構 (7)



SK-06セクション (左はSP-05、西→)



SK-06・SP-05完掘 (西→)



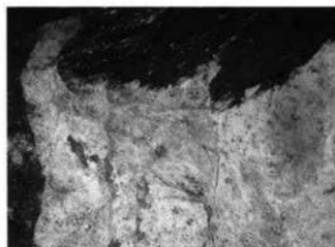
SK-07・08セクション (左がSK-07、西→)



SK-07・08完掘 (左がSK-07、西→)



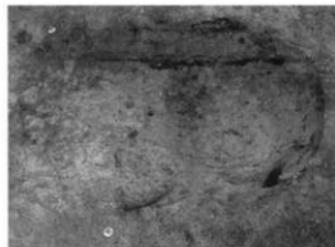
SK-09・SD-07セクション (左がSK-09、東→)



SK-09完掘 (左がSK-09、東→)



SK-12セクション (北→)

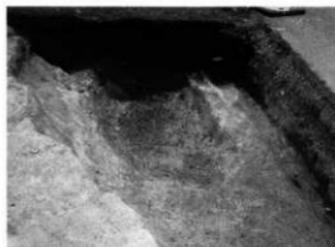


SK-12完掘 (北→)

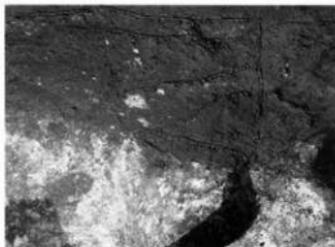
写真8 検出遺構(8)



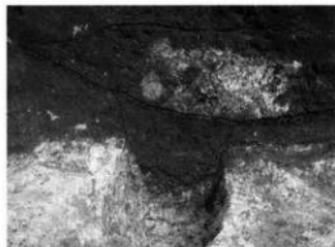
SK-10・11・SD-02・09完掘 (北西→)



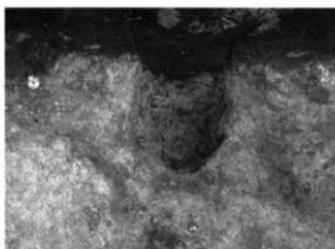
SK-13・SD-02・11完掘 (南→)



SP-05セクション (西→)



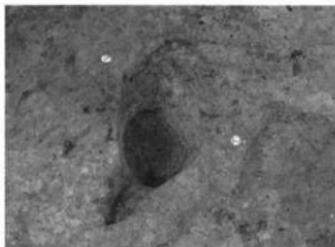
SP-06セクション (西→)



SP-06完掘 (西→)



SP-07セクション (北→)



SP-07完掘 (北西→)



SK-13・SD-02・11セクション (南→)

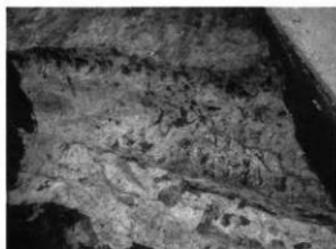
写真9 検出遺構(9)



SK-12・SD-10完掘 (北西→)



SK-12・SD-10完掘 (南西→)



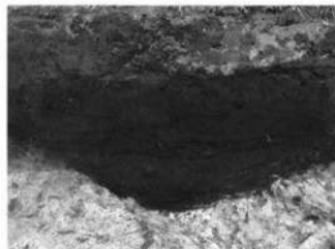
SD-07完掘 (南西→)



SD-08完掘 (東→)



SD-09完掘 (南→)

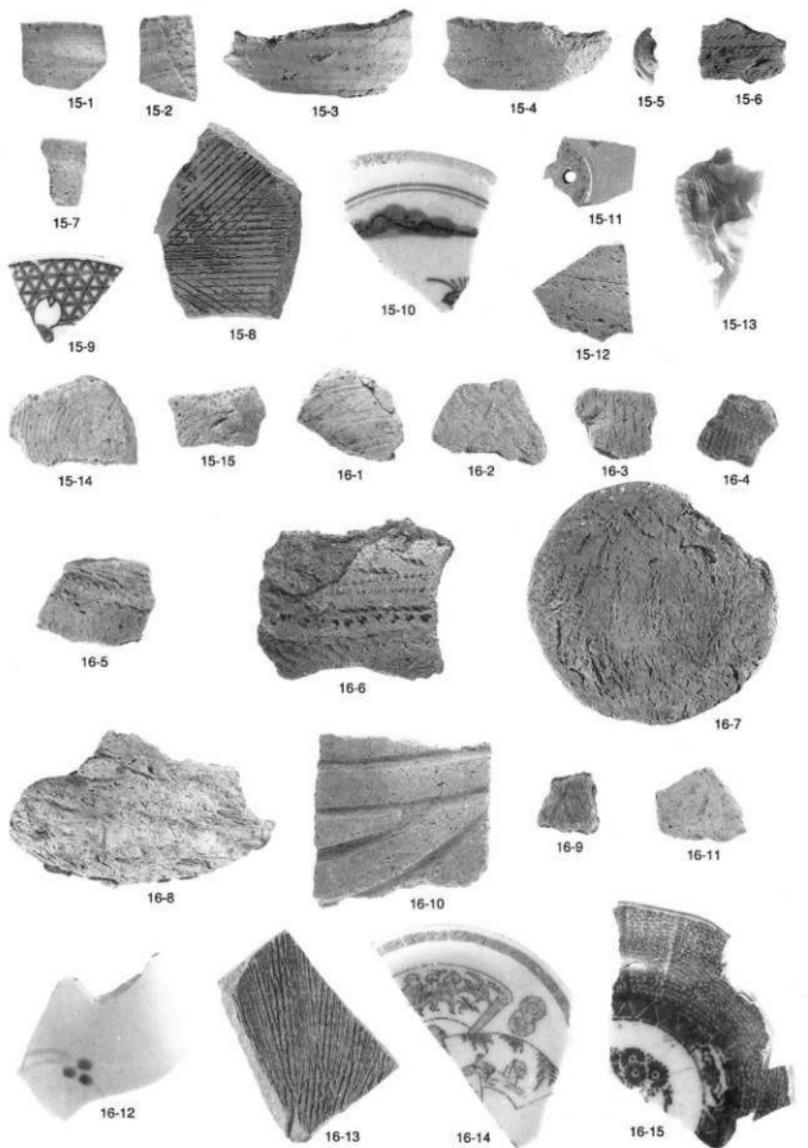


SD-08セクション (東→)



SD-10セクション (西→)

写真10 検出遺構 (10)



(S-1/2)

写真11 出土遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	ながためいけいせきはつかつちようさほうこくしょ
書名	長溜池遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第104集
編著者名	設楽政健、野坂知広
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796
発行年月日	西暦2010年3月26日

所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
長溜池遺跡	青森県青森市 浪岡大学松枝 字野尻ほか	02201	201-341	40° 46' 52"	140° 47' 22"	20080901 S 20081015 20090730 S 20090911	626m <sup>2</sup>	道路改良工事 に先立つ事前 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長溜池遺跡	散布地	縄文時代 平安時代	竪穴遺構 2基 土坑 13基 小ピット 7基 溝状遺構 11条	縄文土器 石器 土師器 陶磁器	

要 約	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長溜池遺跡は、浪岡川・大沢瀬川右岸の台地（微高丘陵）上、標高30～40m内外の地点に位置している。</li> <li>2. 発掘調査は道路改良工事予定地626m<sup>2</sup>を対象に実施した。</li> <li>3. 調査の結果、竪穴遺構2基・土坑13基・小ピット7基・溝状遺構11条を検出し、多くは平安時代（10世紀代）に属するものと思われる。</li> </ol>
-----	---

## 既刊埋藏文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1	1962	「三内遺跡発掘調査概報」	※	第54編	2001	「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ-附木遺跡発掘調査報告書Ⅰ」
※ 2	1965	「四ツ石遺跡調査概報」	※	第55編	2001	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ」
※ 3	1967	「玉清水遺跡調査概報」	※	第56編	2001	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ」
※ 4	1970	「三内丸山遺跡調査概報」	※	第57編	2001	「稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ」
※ 5	1971	「野木水道跡調査報告書」	※	第58編	2001	「大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ」
※ 6	1971	「玉清水日遺跡発掘調査報告書」	※	第59編	2001	「市内遺跡発掘調査報告書」
※ 7	1971	「大槇遺跡調査報告書」	※	第60編	2002	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
※ 8	1973	「浜内遺跡発掘調査報告書」	※	第61編	2002	「大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書」
	1979	「栗沢遺跡」	※	第62編	2002	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
	1983	「四戸橋遺跡調査報告書」	※	第63編	2002	「稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ」
青森市の埋蔵文化財	1983	「山野村遺跡」	※	第64編	2002	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
	1985	「長森遺跡発掘調査報告書」	※	第65編	2003	「妻谷山吹(4)~(7)遺跡発掘調査報告書」
	1986	「田茂木野遺跡発掘調査報告書」	※	第66編	2003	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
	1987	「積内城跡発掘調査報告書」	※	第67編	2003	「深沢(3)遺跡発掘調査報告書」
	1988	「三内丸山1遺跡発掘調査報告書」	※	第68編	2003	「野木野遺跡発掘調査報告書Ⅰ」
青森市埋蔵文化財調査報告書				第69編	2003	「市内遺跡発掘調査報告書ⅠⅠ」
※ 第16編	1991	「山吹(1)遺跡発掘調査報告書」	※	第70編	2003	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
※ 第17編	1992	「埋蔵文化財出土土物調査報告書」	※	第71編	2004	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
※ 第18編	1993	「三内丸山(2)遺跡発掘調査概報」	※	第72編	2004	「稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ」
※ 第19編	1993	「市内遺跡発掘調査報告書」	※	第73編	2004	「新町野遺跡発掘調査概報」
※ 第20編	1993	「小牧野遺跡発掘調査概報」	※	第74編	2004	「市内遺跡発掘調査報告書ⅠⅡ」
※ 第21編	1994	「市内遺跡詳細分布調査報告書」	※	第75編	2004	「江波遺跡発掘調査報告書」
※ 第22編	1994	「小二内遺跡発掘調査報告書」	※	第76編	2005	「栗山(3)遺跡発掘調査報告書」
※ 第23編	1994	「三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書」	※	第77編	2005	「赤坂遺跡発掘調査報告書」
※ 第24編	1995	「積内遺跡・積内(2)遺跡発掘調査報告書」	※	第78編	2005	「三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書」
※ 第25編	1995	「市内遺跡詳細分布調査報告書」	※	第79編	2005	「市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
※ 第26編	1995	「坂平(2)遺跡発掘調査報告書」	※	第80編	2005	「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報」
※ 第27編	1996	「坂基(1)遺跡発掘調査概報」	※	第81編	2005	「石江遺跡野発掘調査概報」
※ 第28編	1996	「三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書」	※	第82編	2006	「三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書」
※ 第29編	1996	「市内遺跡詳細分布調査報告書」	※	第83編	2006	「合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ」
※ 第30編	1996	「小牧野遺跡発掘調査報告書」	※	第84編	2006	「新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ」
※ 第31編	1997	「市内西郷野詳細分布調査報告書」	※	第85編	2006	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
※ 第32編	1997	「坂基(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ」	※	第86編	2006	「市内遺跡発掘調査報告書ⅠⅣ」
※ 第33編	1997	「新町野遺跡試掘調査報告書」	※	第87編	2006	「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
※ 第34編	1997	「越野(2)遺跡発掘調査報告書」	※	第88編	2006	「史跡高所放物遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
※ 第35編	1997	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ」	※	第89編	2006	「篠原遺跡発掘調査報告書」
※ 第36編	1998	「坂基(1)遺跡発掘調査報告書」	※	第90編	2007	「月見野(1)沢跡発掘調査報告書」
※ 第37編	1998	「新町野遺跡発掘調査報告書」	※	第91編	2007	「市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
※ 第38編	1998	「野木遺跡発掘調査報告書」	※	第92編	2007	「新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ」
※ 第39編	1998	「市内遺跡詳細分布調査報告書」	※	第93編	2007	「合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書」
※ 第40編	1998	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ」	※	第94編	2007	「石江遺跡野発掘調査報告書」
※ 第41編	1998	「野木遺跡発掘調査概報」	※	第95編	2008	「野尻(4)遺跡発掘調査報告書」
※ 第42編	1998	「沼沢遺跡発掘調査概報」	※	第96編	2008	「鹿野遺跡野発掘調査報告書」
※ 第43編	1999	「市内遺跡詳細分布調査報告書」	※	第97編	2008	「市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
※ 第44編	1999	「越野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ」	※	第98編	2008	「新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」
※ 第45編	1999	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ」	※	第99編	2009	「市内遺跡発掘調査報告書ⅠⅤ」
※ 第46編	1999	「新町野・野木遺跡発掘調査概報」	※	第100編	2009	「阿部野(1)遺跡発掘調査報告書」
※ 第47編	1999	「稲山遺跡発掘調査概報」	※	第101編	2009	「人矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
※ 第48編	2000	「沼沢遺跡発掘調査報告書Ⅱ」	※	第102編	2009	「細地遺跡発掘調査報告書」
※ 第49編	2000	「稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ」	※	第103編	2010	「市内遺跡発掘調査報告書ⅠⅥ」
※ 第50編	2000	「小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ」	※	第104編	2010	「長谷地遺跡発掘調査報告書」
※ 第51編	2000	「坂基(1)・妻谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書」	※	第105編	2010	「越野(3)遺跡発掘調査報告書」
※ 第52編	2000	「大矢沢野田(1)遺跡調査報告書」	※	第106編	2010	「石江遺跡野発掘調査報告書Ⅱ」
※ 第53編	2000	「市内遺跡発掘調査報告書」				

---

青森市埋蔵文化財調査報告書 第104集

長溜池遺跡発掘調査報告書

発行年月日 平成22年3月26日

発行 青森市教育委員会  
〒038-8505 青森市柳川二丁目1番1号  
TEL. 017-761-4796

印刷 東北印刷工業株式会社  
〒030-0902 青森市合浦一丁目2番12号  
TEL. 017-742-2221

---

